

## 東京都のアリ

寺山 守 東京大学農学部

久保田敏 都立西高等学校

Mamoru TERAYAMA and Satoshi KUBOTA: Ants of Tokyo, Japan

**Abstract** A list of ants collected in Tokyo is given. One hundred thirty-two species in 38 genera are recorded: 81 species in 32 genera from the mainland of Tokyo, 76 species in 29 genera from the Izu Islands, 49 species in 23 genera from the Ogasawara Islands, and 18 species in 11 genera from the Volcano Islands and Minami-tori-shima island.

### はじめに

東京都は行政区分上、首都機能が集中する23区から西部の奥多摩や秩父山地の一部とともに、島嶼部として伊豆諸島、小笠原群島、さらには火山列島までを含む。東京都のアリ相を解明するための本格的な調査、研究は、都の本土よりもむしろ島嶼部から始められ、本土での調査が遅れてなされてきた。今日では、東京都本土の調査も比較的良く実施され、イエヒメアリを含めて5亜科32属81種が記録されるに至っている。さらに、小笠原群島、火山列島と言った小笠原諸島まで含めると、東京都のアリは6亜科38属132種にのぼり、これらは東京都に生息するアリ類の大部分を示すと思われる。本報で島嶼部も含めた東京都のアリ類を種組成の面で総括し、さらに分布や生態面で特徴的な種についても言及したい。

### 調査地域および方法

図1に本報で取り扱った地域の範囲を示した。東京都は、本土から伊豆諸島、小笠原群島、火山列島と南北に約1300kmの長さを持つ。南鳥島(マーカス島)や沖ノ鳥島は太平洋上に孤立して存在する面積1.2km以下の小島である。気候区分で見ると亜熱帯から亜寒帯までが存在し、小笠原群島、火山列島は亜熱帯、伊豆諸島と東京都本土平野部が暖温帯、西部の山地がおもに冷温帯であり、雲取山の標高約1700m以上の地点は亜寒帯となる。図2に伊豆諸島、小笠原群島、火山列島を示した。また、図3に東京都の本土を示し、著者らによる主な採集場所を数字で示した。

東京都本土のアリ相は、文献による記録と筆者らが直接標本を確認した記録とに分けて種ごとに記載した。文献による記録では、記録に示された地名とその出典を文献番号で示した。著者らの標本確認による記録は、図3の地域を示す数字で採集場所を表わし、稀少種でそれ以外の採集例がある場合には、具体的な採集地名を記した。筆者らが標本を確認したものの中にはすでに報文として発表されているものがあるが、標本確認の存否を明示する目的で文献による記録の欄に示すと同時に、検視標本の欄に重複させて記載した。

伊豆諸島のアリの目録は、増子・寺山(1984, 1986)、寺山(1992, 2000a)、寺山・久保田(1994)の報告

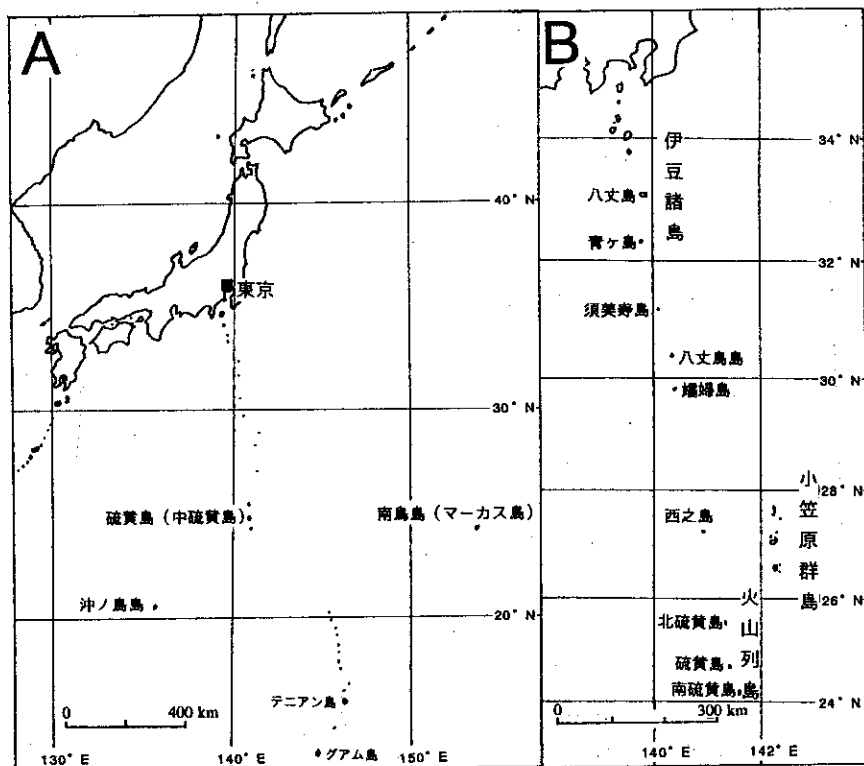


図 1. 東京都全図 (A), 伊豆諸島, 小笠原群島および火山列島の位置図 (B).

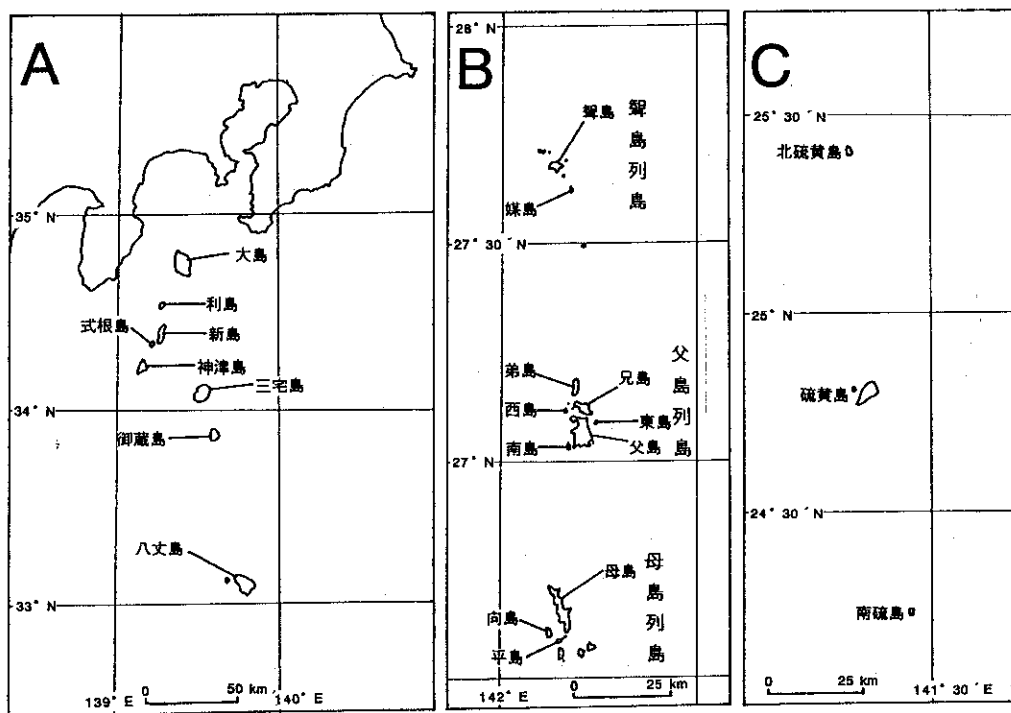


図 2. 伊豆諸島 (A), 小笠原群島 (B), 火山列島 (C).

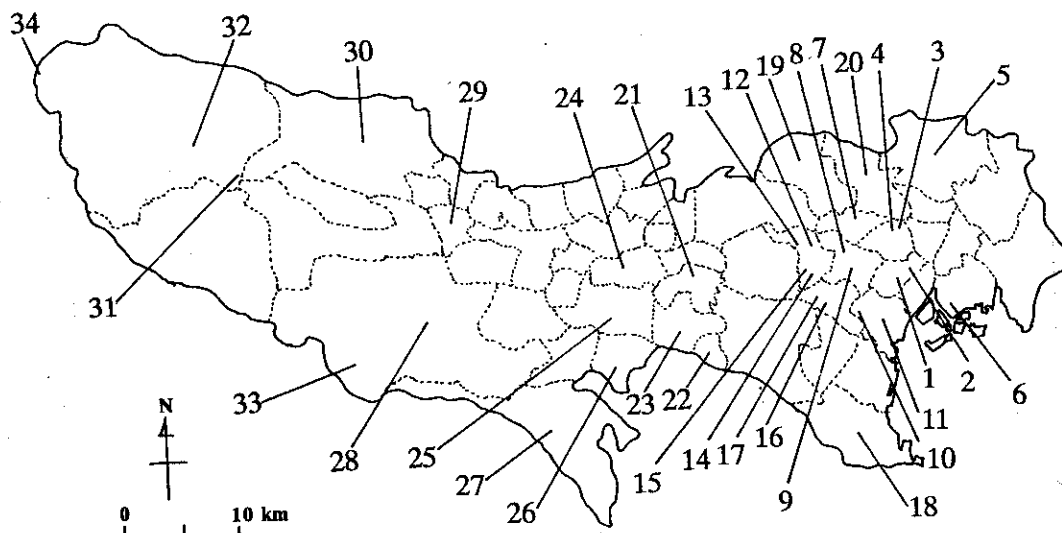


図3. 東京都本土. 数字は採集地を示す.

- 1, 千代田区(皇居); 2, 千代田区大手町; 3, 文京区(東大構内); 4, 文京区(小石川後楽園); 5, 足立区; 6, 中央区(晴海埠頭); 7, 豊島区池袋; 8, 新宿区(おとめ山公園); 9, 新宿区新宿; 10, 港区(国立科学博物館附属自然教育園); 11, 港区(芝離宮); 12, 中野区(哲学堂公園); 13, 中野区野方; 14, 中野区東中野; 15, 中野区中野; 16, 渋谷区; 17, 目黒区駒場(東大構内); 18, 大田区; 19, 北区; 20, 板橋区; 21, 三鷹市(井の頭公園); 22, 狛江市; 23, 調布市; 24, 小金井市; 25, 府中市(是政(多摩川河川敷)); 26, 稲城市; 27, 町田市; 28, 八王子市; 29, 福生市; 30, 青梅市; 31, 御岳山; 32, 奥多摩; 33, 高尾山; 34, 雲取山.

に若干の追加記録を加えたものである。小笠原群島のアリの目録は1992年に寺山・長谷川よりまとめられたものがあり、これに近年の追加記録である高橋他(2000), Onoyama & Terayama (1999), 寺山(1999), Terayama (1999), Terayama & Onoyama (1999), Watanabe & Yamane (1999)を加えて作成した。

火山列島の記録はアリとしては、従来南硫黄島からの記録と硫黄島のアカカミアリの記録のみがあったが、2001年4月にアリを対象とした調査が中硫黄島で初めてなされ、今回これらの調査結果を本報に収録することができた。また、南鳥島からはBryan (1903)による学名不詳種1種と、Sakagami (1961)による4種のアリの記録があるが、2000年10月に本島での調査が行われ、2種のアリを確認した。沖ノ鳥島からのアリの記録はない。

## 結 果

### 東京都全域のアリの概要

東京都本土と伊豆諸島に小笠原群島、火山列島と言った小笠原諸島まで含めると、東京都全体のアリ

表1. 東京都全域, 本土および島嶼の各亜科, 属における種数.

\*: イエヒメアリを含む.

	東京都 全域	東京都 本土	伊豆 諸島	小笠原 群島	火山列島
ハリアリ亜科 Ponerinae	(17)	(12)	(12)	(8)	(1)
ノコギリハリアリ属 <i>Amblyopone</i>	1	1	1	—	—
カギバラアリ属 <i>Proceratium</i>	4	4	4	1	—
ダルマアリ属 <i>Discothyrea</i>	1	—	1	—	—
フトハリアリ属 <i>Pachycondyla</i>	3	2	2	3	1
トゲズネハリアリ属 <i>Cryptopone</i>	2	1	1	1	—
ヒメハリアリ属 <i>Ponera</i>	3	2	2	1	—
ニセハリアリ属 <i>Hypoponera</i>	3	2	1	2	—
クビレハリアリ亜科 Cerapachyinae	(1)	(1)	—	—	—
クビレハリアリ属 <i>Cerapachys</i>	1	1	—	—	—
ムカシアリ亜科 Leptanillinae	(1)	—	—	(1)	—
ムカシアリ属 <i>Leptanilla</i>	1	—	—	1	—
フタフシアリ亜科 Myrmicinae	(68)	(36)	(37)	(29)	(11)
クシケアリ属 <i>Myrmica</i>	2	2	—	—	—
ナガアリ属 <i>Stenammina</i>	2	2	1	—	—
アシナガアリ属 <i>Aphaenogaster</i>	4	3	3	2	—
クロナガアリ属 <i>Messor</i>	1	1	—	—	—
オオズアリ属 <i>Pheidole</i>	7	2	4	5	1
ムネボソアリ属 <i>Leptothorax</i>	8	5	3	2	—
ハダカアリ属 <i>Cardiocondyla</i>	4	—	1	3	3
シワアリ属 <i>Tetramorium</i>	6	1	3	5	2
トフシアリ属 <i>Solenopsis</i>	2	1	1	—	1
ヒメアリ属 <i>Monomorium</i>	6	3*	2	4	3
ウメマツアリ属 <i>Vollenhovia</i>	2	1	1	1	—
コツノアリ属 <i>Oligomyrmex</i>	1	1	1	—	—
ヨコツナアリ属 <i>Pheidologeton</i>	1	—	—	1	—
カドフシアリ属 <i>Myrmecina</i>	2	1	1	—	—
アミメアリ属 <i>Pristomyrmex</i>	1	1	1	1	—
シリアゲアリ属 <i>Crematogaster</i>	5	3	5	—	—
ウロコアリ属 <i>Strumigenys</i>	5	2	3	3	—
アゴウロコアリ属 <i>Pyramica</i>	8	6	7	2	1
カタアリ亜科 Dolichoderinae	(6)	(3)	(2)	(4)	(2)
ヒラフシアリ属 <i>Technomyrmex</i>	2	1	—	1	1
コヌカアリ属 <i>Tapinoma</i>	2	—	1	2	1
カタアリ属 <i>Dolichoderus</i>	1	1	—	—	—
ルリアリ属 <i>Ochetellus</i>	1	1	1	1	—
ヤマアリ亜科 Formicinae	(39)	(29)	(25)	(7)	(5)
ミツバアリ属 <i>Acropyga</i>	2	—	2	—	—
アシナガキアリ属 <i>Anoplolepis</i>	1	—	—	—	1
ヒメキアリ属 <i>Plagiolepis</i>	1	—	—	1	1
アメイロアリ属 <i>Paratrechina</i>	6	2	3	4	2
トビイロケアリ属 <i>Lasius</i>	10	10	9	—	—
ヤマアリ属 <i>Formica</i>	3	3	1	—	—
サムライアリ属 <i>Polyergus</i>	1	1	—	—	—
オオアリ属 <i>Camponotus</i>	13	12	8	2	1
トゲアリ属 <i>Polyrhachis</i>	2	1	2	—	—
合計	132	81	76	49	19

として6亜科38属132種が記録されるに至っている(表1および付表)。この数字は種数において沖縄県の143種に次ぐ数字で、亜熱帯の小笠原諸島を含む広域な東京都の行政区分(生物学的な意味は持たないが)によって多くの種が生息することによる。

#### 東京都本土

東京都からの学術上の最初のアリの記録は19世紀末のForel (1900)によるアズマオオズアリ *Pheidole fervida* とクロヤマアリ *Formica japonica* であろう。そして1945年までの文献上の記録をたどると、29件の文献中に正体の不明なものを除き、4亜科22属32種の報告が見られる。その後の調査により漸次種数が追加されて行き、現在イエヒメアリを含めて5亜科32属81種が得られている。これらの種を以下の目録に示した。戦前のものとして、*Ponera coarctata* が高尾山から(Teranishi, 1940), *Vollenhovia emeryi chosenica* が世田谷区経堂から(寺西, 1933), *Solenopsis fugax* が小石川から(Ito, 1914)記録されているが、これらの3種は現在日本のアリ相から除かれている。また、*Crematogaster laboriosa* (= *C. nawai*) の記録があるが(太田, 1939)、日本産本属の種の学名の適用にはかつて混乱があり、これも東京都本土の記録からは除いた。

#### 東京都本土産アリ類目録(# : 東京都本土初記録種)

##### ハリアリ亜科 Ponerinae

- 1) ノコギリハリアリ *Amblyopone silvestrii* (Wheeler)  
文献：皇居, 74; 東京, 20. 検視標本：1.
- 2) イトウカギバラアリ *Proceratium itoi* (Forel)  
文献：皇居, 74; 自然教育園, 75; 小石川, 110; 中野区, 25; 新宿区, 25. 検視標本：8, 12, 17, 23, 24, 30; 3職蟻, Tokyo, 小石川(他にラベル中に「家」, 「石下」の表記あり), Coll. T. Ito, May 10 1916, Type(総模式標本の一部であろう。農業環境技術研究所所蔵).
- 3) ヤマトカギバラアリ *Proceratium japonicum* Santschi  
文献：皇居, 74; 自然教育園, 75. 検視標本：1, 10; 府中市(佐藤, 私信).
- 4) ワタセカギバラアリ *Proceratium watasei* (Wheeler)  
文献：渋谷, 36; 皇居, 74; 自然教育園, 44, 111; 中野区, 25. 検視標本：13.
- 5) モリシタカギバラアリ *Proceratium morishitai* Onoyama et Yoshimura  
文献：東京都, 24; 新宿区, 25. 検視標本：8.
- 6) オオハリアリ *Pachycondyla chinensis* (Emery)  
文献：渋谷, 36; 自然教育園, 44, 75, 111; 青山, 54; 板橋区, 60; 目黒区, 104, 105; 皇居, 74; 杉並区, 14; 世田谷区, 14; 中野区, 14, 25; 北区, 14; 文京区, 14, 新宿区, 25; 後楽園, 14; 高尾山, 54. 検視標本：8, 12, 17, 19, 23, 24, 30, 31, 33.
- 7) ケブカハリアリ *Pachycondyla pilosior* (Wheeler)  
文献：大田区, 70. 検視標本：18.
- 8) トゲズネハリアリ *Cryptopone sauteri* (Wheeler)  
文献：高尾山, 54. 検視標本：32, 33.
- 9) テラニシハリアリ *Ponera scabra* Wheeler  
文献：自然教育園, 31; 皇居, 74; 文京区東大植物園, 14; 武蔵村山市, 91; 大田区, 70; 草花・伊

奈丘陵, 40. 検視標本 : 4, 33.

10) ヒメハリアリ *Ponera japonica* Wheeler

文献 : 渋谷区, 36. 検視標本 : 24, 27.

11) ニセハリアリ *Hypoponera sauteri* Onoyama

文献 : 皇居, 74 ; 自然教育園, 75 ; 中野区, 25 ; 新宿区, 25. 検視標本 : 8, 12, 17, 23, 30.

12) クロニセハリアリ *Hypoponera nubatama* Terayama et Hashimoto

文献 : 世田谷区, 117. 検視標本 : 5 ; 江戸川区, 葛飾区.

#### クビレハリアリ亜科 Cerapachyinae

1) ツチクビレハリアリ *Cerapachys humicola* Ogata

文献 : 町田市, 67. 検視標本 : 27.

#### フタフシアリ亜科 Myrmicinae

1) シワクシケアリ *Myrmica kotokui* Forel

文献 : 東京都, 24. 検視標本 : 27, 33.

2) エゾクシケアリ *Myrmica jessensis* Forel

文献 : 府中市, 11. 検視標本 : 25, 30.

3) ハヤシナガアリ *Stenamma owstoni* Wheeler

文献 : 東京都, 24. 検視標本 : 33.

4) ヒメナガアリ *Stenamma nipponense* Yasumatsu et Murakami #

検視標本 : 28.

5) アシナガアリ *Aphaenogaster famelica* (F. Smith)

文献 : 自然教育園, 75 ; 皇居, 74 ; 新宿区, 25 ; 銀座, 97 ; 上野公園, 14 ; 文京区後樂園, 25 ; 高尾山, 54 ; 東京, 6, 59. 検視標本 : 4, 8, 19, 23, 33.

6) ヤマトアシナガアリ *Aphaenogaster japonica* Forel

文献 : 自然教育園, 75 ; 高尾山, 6. 検視標本 : 4, 27, 33.

7) イソアシナガアリ *Aphaenogaster osimensis* Teranishi

文献 : 皇居, 74. 検視標本, 1.

8) クロナガアリ *Messor aciculatus* (F. Smith)

文献 : 目黒区, 101, 134 ; 明治神宮, 14 ; 自然教育園, 75 ; 浜離宮, 98 ; 高井戸, 103 ; 府中市, 11 ; 小平市, 115 ; 田無市, 115 ; 高尾山, 54 ; 東京, 59. 検視標本 : 24.

9) アズマオオズアリ *Pheidole fervida* F. Smith

文献 : 銀座, 17, 18 ; 皇居, 74 ; 目黒区, 101, 105 ; 自然教育園, 31, 44, 75, 111 ; 世田谷区, 14 ; 練馬区, 14 ; 文京区, 14 ; 新宿御苑, 14 ; 中野区, 25 ; 新宿区, 25 ; 豊島区, 14 ; 大田区, 14 ; 府中市, 11 ; 目黒区駒場, 131 ; 渋谷, 36 ; 青山, 54 ; 板橋区, 14, 60 ; 大森, 131 ; 高尾山, 131 ; 東京, 4, 20, 59, 108, 109, 131. 検視標本 : 8, 10, 12, 17, 19, 22, 23, 24, 26, 29, 32, 33.

10) オオズアリ *Pheidole noda* F. Smith

文献 : 東京, 20, 59. 検視標本 : 16.

11) ムネボソアリ *Leptothorax congruus* F. Smith

文献 : 皇居, 74 ; 渋谷, 53, 54 ; 目黒区, 101 ; 中野区, 25 ; 板橋区, 60 ; 府中市農工大構内, 136 ;

- 多摩地域, 137; 高尾山, 137; 東京, 20, 59. 検視標本: 4, 10, 12, 19, 23, 25, 26, 30, 32.
- 12) ハリナガムネボソアリ *Leptothorax spinosior* Forel  
文献: 皇居, 74. 検視標本: 5, 19.
- 13) チャイロムネボソアリ *Leptothorax kubira* Terayama et Onoyama #  
検視標本: 34.
- 14) カドムネボソアリ *Leptothorax koreanus* Teranishi #  
検視標本: 千代田区神田錦糸公園(千葉県立博物館所蔵).
- 15) ヒメムネボソアリ *Leptothorax arimensis* Azuma  
文献: 東京都, 24. 検視標本: 28, 33.
- 16) トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae* Emery  
文献: 銀座, 97, 98; 皇居, 74; 皇居周辺, 37; 渋谷, 36; 目黒, 9, 101, 165; 中目黒, 9; 自然教育園, 75; 目黒区駒場, 47; 駒込, 10; 大森, 51; 中野区, 25; 新宿区, 25; 板橋区, 60; 世田谷区, 14; 大田区, 14; 中央区, 14; 荒川区, 14; 江東区, 14; 狛江市, 58; 東京, 59. 検視標本: 5, 6, 8, 11, 12, 17, 19, 22, 23, 24, 25, 27, 33.
- 17) トフシアリ *Solenopsis japonica* Wheeler  
文献: 中野区, 25; 小石川, 3; 上野, 34; 皇居, 74; 渋谷, 34; 自然教育園, 75; 高井戸, 103; 東京, 20, 59. 検視標本: 8, 12, 21, 27.
- 18) ヒメアリ *Monomorium intrudens* F. Smith  
文献: 皇居, 74; 目黒区, 101; 自然教育園, 75; 高井戸, 103; 府中市, 11; 府中市農工大構内, 136; 多摩地域, 137; 東京, 59. 検視標本: 27, 30.
- 19) キイロヒメアリ *Monomorium triviale* Wheeler  
文献: 中野区, 25; 東京都, 24; 皇居, 74; 自然教育園, 75. 検視標本: 1, 12.
- 20) ウメマツアリ *Vollenhovia emeryi* Wheeler  
文献: 皇居, 74; 目黒区, 101; 自然教育園, 75; 渋谷, 36; 板橋区, 60; 高尾山, 54; 東京, 20, 59, 109. 検視標本: 8, 12, 27, 24, 30, 32, 33.
- 21) コツノアリ *Oligomyrmex yamatonis* Terayama  
文献: 中野区, 25; 新宿区, 25; 皇居, 74; 自然教育園, 75. 検視標本: 8, 12.
- 22) カドフシアリ *Myrmecina nipponica* Wheeler  
文献: 皇居, 74; 自然教育園, 44, 75; 新宿区, 25; 渋谷, 36. 検視標本: 1, 8, 27.
- 23) キイロカドフシアリ *Myrmecina flava* Terayama  
文献: 町田市, 139. 検視標本: 27.
- 24) アミメアリ *Pristomyrmex pungens* Mayr  
文献: 皇居, 74; 目黒, 10, 105; 自然教育園, 44, 75, 111; 渋谷, 36; 板橋区, 60; 中野区, 25; 新宿区, 25; 高井戸, 103; 豊島区, 14; 文京区, 14; 中央区, 14; 府中市, 11; 東京, 8, 59, 109. 検視標本: 4, 6, 8, 10, 11, 12, 17, 19, 21, 22, 26, 31, 32, 33.
- 25) ハリプトシリアゲアリ *Crematogaster matsumurai* Forel  
文献: 皇居, 74; 自然教育園, 75; 中野区, 25; 新宿区, 25; 板橋区, 60; 高尾山, 54; 東京, 20, 59, 109. 検視標本: 8, 12, 17, 19, 23, 24, 26, 30, 31, 33.
- 26) テラニシシリアゲアリ *Crematogaster teranishii* Santschi  
文献: 皇居, 74; 目黒区, 101; 自然教育園, 75; 板橋区, 60; 高井戸, 103; 府中市, 11; 府中市農

工大構内, 104, 105, 136. 検視標本: 4, 19, 23, 26, 27, 32, 33.

27) キイロシリアゲアリ *Crematogaster osakensis* Forel

文献: 皇居, 74; 目黒区, 101, 104, 105; 自然教育園, 44, 75, 111; 明治神宮, 14; 新宿御苑, 14; 中野区, 25; 新宿区, 25; 板橋区, 60; 高井戸, 103; 世田谷区, 14; 練馬区, 14; 文京区, 14; 府中市, 11; 東京, 20, 54, 109. 検視標本: 8, 10, 12, 17, 19, 24, 25, 30, 32, 33; *Crematogaster soldidula* var. *japonica*, Tokyo, 小石川, 22. Oct. 1912, 2 職蟻(模式標本であることを示す表示はないが, *Crematogaster soldidula* var. *japonica*の総模式標本の一部である可能性がある標本. 農業環境技術研究所蔵).

28) ウロコアリ *Strumigenys lewisi* Cameron

文献: 皇居, 74; 自然教育園, 44, 75, 111; 渋谷, 36, 51; 新宿御苑, 14; 板橋区, 60; 文京区, 14; 北区, 14; 江東区, 14; 大森, 51; 高尾山, 54, 59; 東京, 8. 検視標本: 8, 12, 13, 17, 24, 27, 32, 33.

29) キタウロコアリ *Strumigenys* sp.

文献: 皇居, 74. 検視標本: 1.

30) イガウロコアリ *Pyramica benten* (Terayama, Lin et Wu)

文献: 皇居, 74; 目黒区駒場, 89; 中野区, 25; 新宿区, 25. 検視標本: 3, 8, 10, 12, 13, 17.

31) ノコバウロコアリ *Pyramica incerta* (Brown)

文献: 町田市, 67. 検視標本, 27.

32) ホソノコバウロコアリ *Pyramica rostrataeformis* (Brown)

文献: 八王子市, 67. 検視標本, 八王子市高尾町.

33) トカラウロコアリ *Pyramica membranifera* (Emery)

文献: 中野区哲学堂, 25. 検視標本: 12.

34) ヒラタウロコアリ *Pyramica canina* (Brown et Boisvert)

文献: 皇居, 74; 自然教育園, 46, 75. 検視標本: 1, 10.

35) セダカウロコアリ *Pyramica hexamera* (Brown)

文献: 皇居, 74. 検視標本: 1.

カタアリ亜科 Dolichoderinae

1) ヒラフシアリ *Technomyrmex gibbosus* Wheeler

文献: 皇居, 74; 青山, 54; 中野区, 25; 目黒区, 101, 104, 105, 109; 板橋区, 60; 井の頭公園, 54. 検視標本: 12, 19, 20.

2) シベリアカタアリ *Dolichoderus sibiricus* Emery

文献: 東京都, 24. 検視標本: 26, 33.

3) ルリアリ *Ochetellus glaber* (Mayr)

文献: 東京, 20.

ヤマアリ亜科 Formicinae

1) アメイロアリ *Paratrechina flavipes* (F. Smith)

文献: 皇居, 74; 目黒区, 101, 104; 自然教育園, 31, 75, 11; 新宿御苑, 14; 渋谷, 36; 中野区, 25; 新宿区, 25; 板橋区, 60; 世田谷区, 14; 大田区, 14; 文京区, 14; 江東区, 14; 井の頭, 90;



- 浅井, 90; 府中市, 11; 御岳, 90; 東京, 20, 53, 109. 検視標本: 4, 6, 8, 11, 12, 13, 14, 17, 19, 22, 23, 27, 30, 33.
- 2) サクラアリ *Paratrechina sakurae* (Ito)  
文献: 皇居, 74; 小石川, 3; 自然教育園, 75; 新宿区, 25; 渋谷, 36; 府中市, 11; 中央区築地本願寺, 14. 検視標本: 8, 10, 12, 17, 21, 29.
- 3) トビイロケアリ *Lasius japonicus* Santschi  
文献: 銀座, 97; 皇居, 74; 皇居周辺, 37; 小石川, 3; 目黒区, 104, 105; 自然教育園, 31, 75, 111; 目黒区駒場, 47; 渋谷区, 36; 中野区, 25; 新宿区, 25; 新宿御苑, 14; 板橋区, 60; 品川区, 120; 世田谷区, 14; 三鷹市, 14; 豊島区, 14; 文京区, 14; 江東区, 14; 大森, 51; 赤羽, 90; 目白, 90; 高井戸, 103; 石神井公園, 49; 小平市, 36, 123, 124; 府中市, 11; 東京, 19, 23. 検視標本: 4, 5, 6, 8, 10, 12, 17, 19, 22, 23, 24, 26, 27, 30, 31, 32, 33.
- 4) カワラケアリ *Lasius sakagami* Yamauchi et Hayashida  
文献: 皇居, 74; 自然教育園, 75; 板橋区, 60; 西荻窪, 123, 124; 東京, 125. 検視標本: 2, 25, 26, 29.
- 5) ハヤシケアリ *Lasius hayashi* Yamauchi et Hayashida  
文献: 皇居, 74; 東京都, 24. 検視標本: 30, 31, 33.
- 6) ヒゲナガケアリ *Lasius productus* Wilson  
文献: 皇居, 74. 検視標本: 31, 32, 33.
- 7) キイロケアリ *Lasius flavus* (Fabricius)  
文献: 皇居, 74; 自然教育園, 31, 44, 75, 111; 新宿区, 25; 板橋区, 60. 検視標本: 8, 12, 17, 30, 34.
- 8) ヒメキイロケアリ *Lasius talpa* Wilson  
文献: 豊島区学習院, 14. 検視標本: 17, 26.
- 9) クサアリモドキ *Lasius spathopus* Wheeler  
文献: 皇居, 74; 自然教育園, 75; 大森, 51, 52, 53; 東京, 20, 109. 検視標本: 4, 19, 23, 27, 30, 33.
- 10) クロクサアリ *Lasius fuliginosus* (Latreille)  
文献: 青山, 53; 中野区, 25, 59; 新宿区, 25; 板橋区, 60; 三鷹市井の頭公園, 14; 豊島区学習院, 14; 用賀, 123, 124; 府中市, 11; 東京, 23, 109. 検視標本: 8, 12, 13, 26, 30, 32.
- 11) フシボソクサアリ *Lasius capitatus* (Kuznetsov-Ugamsky)  
文献: 東京都, 24. 検視標本: 32, 34.
- 12) アメイロケアリ *Lasius umbratus* (Nylander)  
文献: 小石川, 3; 皇居, 74; 自然教育園, 44, 75; 新宿御苑, 14; 世田谷区, 14; 杉並区, 14; 豊島区, 14; 北区, 14; 文京区, 14; 練馬区, 14; 江東区, 14; 三鷹市, 14. 検視標本: 10.
- 13) クロヤマアリ *Formica japonica* Motschoulsky  
文献: 銀座, 97; 皇居, 74; 皇居周辺, 37; 千代田区九段, 1; 新宿御苑, ; 14目黒区, 75, 101, 104, 105; 目黒区駒場, 47; 渋谷区, 36; 日比谷公園, 10; 新宿区, 25; 杉並区, 14; 文京区, 14; 中央区, 14; 板橋区, 60; 高井戸, 102; 瀧川, 10; 小平市, 36; 稲城市, 41, 59; 武蔵野市, 15; 東京, 5, 19, 20, 35, 108, 113. 検視標本: 4, 6, 8, 10, 11, 12, 17, 22, 23, 26, 27, 28, 29, 30, 32.

- 14) ハヤシクロヤマアリ *Formica hayashi* Terayama et Hashimoto  
文献：世田谷区(旧都立大学構内), 48. 検視標本：27, 30, 33.
- 15) ヤマクロヤマアリ *Formica lemani* Bondroit  
検視標本：34.
- 16) サムライアリ *Polyergus samurai* Yano  
文献：千代田区九段, 1, 2; 自然教育園, 75; 世田谷区(旧都立大学構内), 48; 高井戸, 103; 中野区, 126; 府中市, 11; 武蔵野市, 15; 東京, 4, 5, 19, 20, 113, 129, 130. 検視標本：府中市(東京農工大学).
- 17) クロオオアリ *Camponotus japonicus* Mayr  
文献：銀座, 97; 皇居, 74; 皇居周辺, 37; 目黒区, 101, 105; 自然教育園, 75; 渋谷区, 36; 新宿御苑, 14; 千代田区(九段会館), 14; 杉並区, 60; 板橋区, 60; 練馬区, 14; 世田谷区, 14; 墨田区, 14; 中野区, 14, 25; 新宿区, 25; 豊島区, 14; 高井戸, 103; 府中市, 11; 稲城市, 59; 八王子市, 29; 東京, 20, 113. 検視標本：2, 6, 7, 8, 12, 17, 19, 22, 23, 24, 26, 27, 28, 29, 30, 32.
- 18) ムネアカオオアリ *Camponotus obscuripes* Mayr  
文献：目黒区, 105; 自然教育園, 31; 奥多摩御岳, 100; 高尾山, 132. 検視標本：26, 27, 28, 31, 32, 33.
- 19) アメイロオオアリ *Camponotus devastivus* Wheeler  
文献：皇居, 74; 自然教育園, 75. 検視標本：1, 10.
- 20) ヨツボシオオアリ *Camponotus quadrinotatus* Forel  
文献：皇居, 74; 目黒区, 101, 104, 105; 自然教育園, 75; 中野区, 25. 検視標本：11, 12, 14, 19, 24, 26, 32, 33.
- 21) クサオオアリ *Camponotus keihittoi* Forel  
文献：青山, 50; 皇居, 74; 東京都, 24. 検視標本：1, 33.
- 22) ケブカツヤオオアリ *Camponotus nipponensis* Santschi #  
検視標本：28.
- 23) ミカドオオアリ *Camponotus kiusiuensis* Santschi  
文献：皇居, 74; 自然教育園, 75; 奥多摩御岳, 100. 検視標本：1, 14, 26, 32.
- 24) ヤマヨツボシオオアリ *Camponotus yamaokai* Terayama et Satoh  
文献：皇居, 74. 検視標本：1, 26.
- 25) ナワヨツボシオオアリ *Camponotus nawai* Ito  
文献：皇居, 74; 自然教育園, 75; 高尾山, 53. 検視標本：1, 12, 30, 32, 33.
- 26) イトウオオアリ *Camponotus itoi* Forel  
文献：皇居, 74; 目黒区, 101, 104, 105; 自然教育園, 75; 中野区, 25; 高井戸, 103; 府中市農工大構内, 136; 東京, 109. 検視標本：1, 4, 12, 26, 30, 33; Tokyo, 小石川, 31.VII.1912, T. Ito, Type, 1兵蟻, 1職蟻, (総模式標本の一部であろう. 農業環境技術研究所所蔵).
- 27) ウメマツオオアリ *Camponotus vitiosus* F. Smith  
文献：皇居, 74; 自然教育園, 75; 府中市農工大構内, 136; 東京, 53, 109. 検視標本：1, 12, 32.
- 28) ヒラズオオアリ *Camponotus nipponicus* Wheeler  
文献：皇居, 74; 目黒区, 101; 自然教育園, 75. 検視標本：1.

29) トゲアリ *Polyrhachis lamellidens* F. Smith

文献：府中市，11；稲城市，59. 検視標本：26，27，30，33.

人為的移入種(定着)

1) イエヒメアリ *Monomorium pharaonis* (Linnaeus)

文献：銀座，97；日本橋，97；赤坂御所，135；台東区，29；品川区，29，98；渋谷，97；新宿，97；世田谷区，98；豊島区，98；浅川，10；小金井市，29；御岳，90；東京，133. 検視標本：15，16，22；四谷，2. VIII. 1934 (農業環境技術研究所所蔵).

人為的移入種

1) キイロオオシワアリ *Tetramorium nipponense* Wheeler

検視標本：青梅市.

2) アワテコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum* (Fabricius)

文献：新宿区，76；港区，34. 検視標本：新宿区.

3) ヒゲナガアメイロアリ *Paratrechina longicornis* (Latreille)

文献：上野動物園水族館内，98，122.

4) オガサワラオオアリ *Camponotus ogasawarensis* Terayama et Satoh

文献：大田区，70. 検視標本：18.

5) ナガフシアリ *Tetraoponera allaborans* (Walker)

検視標本：府中市(東京農工大学構内).

伊豆諸島

伊豆諸島では伊豆大島から青ヶ島までの9島のアリ相が調べられており，これまでに4亜科29属76種が得られている(表2)．これらは基本的に関東平野のアリ相と同一の種組成を示している(寺山，1986，1995)．伊豆諸島から得られているが，東京都本土からは未採集のアリは10種であるが，それらの内，伊豆諸島に生息し，関東地方から記録のない種は6種のみとなる．島の面積と所産種数の間には種数-面積関係が成立し(図4)，島の面積が大きくなるほど，より多くのアリの種が生息する．面積が91.0 km<sup>2</sup>の伊豆大島で51種が，55.1 km<sup>2</sup>の三宅島で48種が，69.2 km<sup>2</sup>の八丈島では42種のアリが得られている．

小笠原群島

小笠原群島は父島列島，母島列島，聳島列島の大小30あまりの島からなり，火山列島とともに小笠原諸島を構成する．これまでのところ，5亜科23属49種が11の島から得られている．表3にアリの分布記録がある11島のアリの種組成を示した．父島列島から4亜科22属42種が，聳島列島からは5亜科11属14種が，母島列島からは4亜科21属32種が得られている．記録された種数の多い島は，父島の39種，母島の30種，兄島の24種である．本群島は，東京都本土や伊豆諸島とは種組成が大きく異なり(寺山，1986，1995)，東京都で本群島からのみ得られている種は20種にもおよぶ．また，都本土や伊豆諸島よりは，琉球列島や台湾との共通種が多く見られ，伊豆諸島にまでは見られる北方に分布する旧北区系のアリが，本群島に至ると全く生息しない．本群島のアリ類の内の少なからずの種が，風に飛ばされて，あるいは流木に乗って本群島にたどり着き定着したものと思われる．父島の西方約140kmの洋上にあり，火山の噴火活動によって1973年にできた西之島新島からは，1975年10月の段階ですでにハダカアリ *Cardiocondyla*

表2. 伊豆諸島のアリ類.

	大島	利島	新島	式根島	神津島	三宅島	御蔵島	八丈島	青ヶ島
<b>ハリアリ亜科 Ponerinae</b>									
1) ノコギリハリアリ <i>Amblyopone silvestrii</i> (Wheeler)		○		○		○	○		
2) ヤマトカギバラアリ <i>Proceratium japonicum</i> Santschi				○		○		○	
3) イトウカギバラアリ <i>Proceratium itoi</i> (Forel)				○					
4) ワタセカギバラアリ <i>Proceratium watasei</i> (Wheeler)	○								
5) モリシタカギバラアリ <i>Proceratium morisitai</i> Onoyama et Yoshimura	○								
6) ダルマアリ <i>Discothyrea sauteri</i> Forel						○			
7) オオハリアリ <i>Pachycondyla chinensis</i> (Emery)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8) ケブカハリアリ <i>Pachycondyla pilosior</i> (Wheeler)								○	
9) トゲズネハリアリ <i>Cryptopone sauteri</i> (Wheeler)	○	○		○		○	○	○	
10) テラニシハリアリ <i>Ponera scabra</i> Wheeler	○	○						○	
11) ヒメハリアリ <i>Ponera japonica</i> Wheeler							○	○	○
12) ニセハリアリ <i>Hypoponera sauteri</i> Onoyama	○	○		○		○	○	○	○
<b>フタフシアリ亜科 Myrmicinae</b>									
1) ハヤシナガアリ <i>Stenammas owstoni</i> Wheeler	○								
2) アシナガアリ <i>Aphaenogaster famelica</i> (F. Smith)	○	○	○						
3) ヤマトアシナガアリ <i>Aphaenogaster japonica</i> Forel					○	○	○	○	
4) イソアシナガアリ <i>Aphaenogaster osimensis</i> Teranishi	○	○	○	○	○	○	○	○	
5) アズマオオズアリ <i>Pheidole fervida</i> F. Smith	○	○	○	○	○	○	○	○	
6) インドオオズアリ <i>Pheidole indica</i> Mayr	○					○		○	
7) オオズアリ <i>Pheidole noda</i> F. Smith	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8) ヒメオオズアリ <i>Pheidole pieli</i> Santschi	○			○		○	○	○	
9) ムネボソアリ <i>Leptothorax congruus</i> F. Smith	○	○		○	○	○		○	○
10) ハリナガムネボソアリ <i>Leptothorax spinosior</i> Forel	○							○	
11) フシナガムネボソアリ <i>Leptothorax antera</i> Terayama et Onoyama								○	
12) オオシワアリ <i>Tetramorium bicarinatum</i> (Nylander)			○			○		○	○
13) キイロオオシワアリ <i>Tetramorium nipponense</i> Wheeler	○								○
14) トビイロシワアリ <i>Tetramorium tsushimae</i> Emery	○	○	○	○	○	○		○	
15) ヒメアリ <i>Monomorium intrudens</i> F. Smith	○			○			○	○	○
16) クロヒメアリ <i>Monomorium chinense</i> Santschi								○	
17) トフシアリ <i>Solenopsis japonica</i> Wheeler	○	○		○		○		○	○
18) コツノアリ <i>Oligomyrmex yamatonis</i> Terayama	○	○		○		○	○		
19) ウメマツアリ <i>Vollenhovia emeryi</i> Wheeler	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20) カドフシアリ <i>Myrmecina nipponica</i> Wheeler	○			○		○	○		
21) アミメアリ <i>Pristomyrmex pungens</i> Mayr	○		○	○	○	○	○	○	○
22) ハダカアリ <i>Cardiocondyla nuda</i> (Mayr)	○					○		○	○
23) テラニシシリアゲアリ <i>Crematogaster teranishii</i> Santschi	○			○	○	○			
24) ツヤシリアゲアリ <i>Crematogaster nawai</i> Ito								○	
25) ハリフトシリアゲアリ <i>Crematogaster matsumurai</i> Forel				○				○	
26) クボミシリアゲアリ <i>Crematogaster vagula</i> Wheeler	○	○				○	○		
27) キイロシリアゲアリ <i>Crematogaster osakensis</i> Forel	○	○	○	○	○	○	○		

表2. 伊豆諸島のアリ類. (続き)

	大島	利島	新島	式根島	神津島	三宅島	御蔵島	八丈島	青ヶ島
28) ウロコアリ <i>Strumigenys lewisi</i> Cameron	○	○		○	○	○	○	○	○
29) オオウロコアリ <i>Strumigenys solifontis</i> Brown	○	○				○	○	○	
30) キタウロコアリ <i>Strumigenys</i> sp.		○				○			
31) ノコバウロコアリ <i>Pyramica incerta</i> (Brown)						○			
32) イガウロコアリ <i>Pyramica benten</i> (Terayama, Lin et Wu)						○			
33) トカラウロコアリ <i>Pyramica membranifera</i> (Emery)						○			
34) ヒラタウロコアリ <i>Pyramica canina</i> (Brown et Boisvert)						○		○	○
35) ヌカウロコアリ <i>Pyramica mutica</i> (Brown)								○	
36) セダカウロコアリ <i>Pyramica hexamera</i> (Brown)				○				○	
37) ヒメセダカウロコアリ <i>Pyramica hirashimai</i> (Ogata)	○							○	○
<b>カタアリ亜科 Dolichoderinae</b>									
1) ルリアリ <i>Ochetellus glaber</i> (Mayr)	○		○	○	○	○		○	
2) コヌカアリ <i>Tapinoma</i> sp.	○	○		○		○	○	○	
<b>ヤマアリ亜科 Formicinae</b>									
1) ミツバアリ <i>Acropyga sauteri</i> Forel	○								○
2) イツツバアリ <i>Acropyga nipponensis</i> Terayama							○		
3) アメイロアリ <i>Paratrechina flavipes</i> (F. Smith)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4) サクラアリ <i>Paratrechina sakurae</i> (Ito)	○								
5) ツヤサクラアリ <i>Paratrechina</i> sp.									○
6) トビイロケアリ <i>Lasius japonicus</i> Santschi	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7) カワラケアリ <i>Lasius sakagami</i> Yamauchi et Hayashida								○	○
8) ハヤシケアリ <i>Lasius hayashi</i> Yamauchi et Hayashida	○								
9) ヒゲナガケアリ <i>Lasius productus</i> Wilson	○	○							
10) キイロケアリ <i>Lasius flavus</i> (Fabricius)	○					○			
11) ヒメキイロケアリ <i>Lasius talpa</i> Wilson	○		○	○	○	○		○	
12) クサアリモドキ <i>Lasius spathepus</i> Wheeler	○								
13) クロクサアリ <i>Lasius fuliginosus</i> (Latreille)	○			○	○				
14) アメイロケアリ <i>Lasius umbratus</i> (Nylander)						○		○	
15) クロヤマアリ <i>Formica japonica</i> Motschoulsky	○	○	○	○	○	○	○		
16) クロオオアリ <i>Camponotus japonicus</i> Mayr	○	○	○	○	○	○	○		
17) ムネアカオオアリ <i>Camponotus obscuripes</i> Mayr							○	○	
18) アメイロオオアリ <i>Camponotus devestivus</i> Wheeler	○	○		○		○	○	○	
19) ミカドオオアリ <i>Camponotus kiusiuensis</i> Santschi	○	○	○			○	○	○	
20) クサオオアリ <i>Camponotus keihitoi</i> Forel	○								
21) ナワヨツボシオオアリ <i>Camponotus nawai</i> Ito	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22) ウメマツオオアリ <i>Camponotus vitiosus</i> F. Smith		○				○	○	○	
23) ヒラズオオアリ <i>Camponotus nipponicus</i> Wheeler	○	○		○		○	○	○	○
24) チクシトゲアリ <i>Polyrhachis moesta</i> Emery	○					○	○		
25) トゲアリ <i>Polyrhachis lamellidens</i> F. Smith	○				○	○	○		
種 数	51	31	18	35	22	48	32	42	21

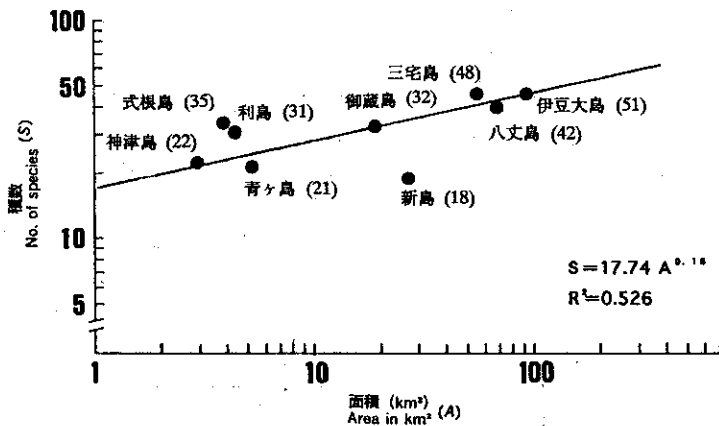


図4. 伊豆諸島におけるアリ類の種数-面積関係。島名の次に示した括弧内の数字は所産種数を表わす。

nuda が得られている(寺山, 1995)。さらに無視できないものとして、物資の搬入等の人為的な要因によるアリの移入があげられ、小笠原群島も多くのこのような種の人為的侵入を受けている。

世界的に見て、本群島からのみ知られている種としてオガサワラオオアリ *Camponotus ogasawarensis*(小笠原から大田区に人為的に運び込まれたものも得られている)、オガサワラムカシアリ *Leptanilla oceanica*, トゲナシアシナガアリ *Aphaenodaster edentula*, オガサワラムネボソアリ *Leptothorax haira*, シワムネボソアリ *Leptothorax santra*の5種が存在する。また、日本では本群島からのみ知られている種としてオガサワラハリアリ *Ponera swezeyi*とナンヨウシワアリ *Tetramorium pacificum*があげられる。これら2種のアリは、太平洋上の島々や熱帯アジアに広く分布する種である。

#### 火山列島及び南鳥島

小笠原群島のさらに南方の洋上にある火山列島は、北硫黄島、硫黄島(中硫黄島)、南硫黄島の3つの火山島からなる。硫黄島は本土から1250km離れた洋上にある面積22km<sup>2</sup>の島である(図5)。本島は、大平洋戦争の激戦地の一つであり、島全体が焦土となった歴史がある。戦後、米軍によってギンネムの種子が空中散布され、現在、島の多くはギンネム林であり、島の中央部には自衛隊の飛行場が存在する。また、火山活動が活発で、地温が高く、40-50℃の地熱を有する場所もある。島の至るところに噴気口があり、硫黄を含む水蒸気がしばしば噴出している。これらの島々のアリに関する詳細な研究はなく、これまでに南硫黄島での総合調査がなされた際の3亜科6属7種(内5種は学名不詳)の目録(佐藤, 1982)と硫黄島からのアカカミアリ *Solenopsis geminata*の報告(寺山, 1999)のみが存在した。

南鳥島は硫黄島からさらに1100km東方に離れた距離にあり、本土からは南南東に1950 km離れた大平洋の孤島である。面積1.2 km<sup>2</sup>, 最高度が海拔8mの平坦な小島である。

本島からは古い報告が存在し、Bryanによる南鳥島の地形、動物相、植物相を総括した報文(1903)には "a small red ant" がごく普通に見られることが記されている。さらにSakagami (1961) の1952年4月から5月にかけて実施された本島での調査の報告には、アカカミアリ *Solenopsis geminata*, アワテコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum*, トビイロケアリ *Lasius japonicus* (論文中の *L. niger*), トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae* (論文中の *T. caespitum*)の4種のアリが記録されている。その中で、アワテコヌカアリとトビイロケアリは、灌木林から草本群落がパッチ状に生える裸地にまで広くかつ頻繁に見い

表 3. 小笠原群島のアリ類.

	父島	母島	兄島	弟島	聳島	媒島	東島	西島	南島	平島	向島
<b>ハリアリ亜科 Ponerinae</b>											
1) ヤマトカギバラアリ <i>Proceratium japonicum</i> Santschi		○									
2) ツシマハリアリ <i>Pachycondyla</i> sp.		○									
3) オオハリアリ <i>Pachycondyla chinensis</i> (Emery)	○	○									
4) ケブカハリアリ <i>Pachycondyla pilosior</i> (Wheeler)	○	○	○	○							
5) ハナダカハリアリ <i>Cryptopone tengu</i> Terayama		○									
6) オガサワラハリアリ <i>Ponera swezeyi</i> Wheeler	○	○									
7) ニセハリアリ <i>Hypoponera sauteri</i> Onoyama	○	○	○	○	○			○	○		
8) トビニセハリアリ <i>Hypoponera bondroiti</i> (Forel)	○							○			○
<b>フタフシアリ亜科 Myrmicinae</b>											
1) トゲナシアシナガアリ <i>Aphaenogaster edentula</i> Watanabe et Sk. Yamane		○			○						
2) イソアシナガアリ <i>Aphaenogaster osimensis</i> Teranishi	○		○	○	○			○		○	
3) インドオオズアリ <i>Pheidole indica</i> Mayr	○	○		○		○		○		○	○
4) ミナミオオズアリ <i>Pheidole fervens</i> F. Smith	○		○					○		○	○
5) ヒメオオズアリ <i>Pheidole pieli</i> Santschi	○		○								
6) ツヤオオズアリ <i>Pheidole megacephala</i> (Fabricius)	○		○		○						
7) クロオオズアリ <i>Pheidole susanowo</i> Onoyama et Terayama	○										
8) オガサワラムネボソアリ <i>Leptothorax haira</i> Terayama et Onoyama					○						
9) シワムネボソアリ <i>Leptothorax santra</i> Terayama et Onoyama	○		○								
10) ハダカアリ <i>Cardiocondyla nuda</i> (Mayr)	○	○	○						○		○
11) キイロハダカアリ <i>Cardiocondyla wroughtonii</i> (Forel)	○		○								○
12) ヒメハダカアリ <i>Cardiocondyla tsukuyomi</i> Terayama			○								
13) オオシワアリ <i>Tetramorium bicarinatum</i> (Nylander)	○	○	○	○		○			○	○	○
14) イカリゲシワアリ <i>Tetramorium lanuginosum</i> Mayr	○	○	○					○			○
15) キイロオオシワアリ <i>Tetramorium nipponense</i> Wheeler	○										
16) サザナミシワアリ <i>Tetramorium simillinum</i> (F. Smith)	○			○	○			○			
17) ナンヨウシワアリ <i>Tetramorium tonganum</i> Mayr	○	○									
18) クロヒメアリ <i>Monomorium chinense</i> Santschi	○	○	○		○		○	○	○		
19) フタイロヒメアリ <i>Monomorium floricola</i> (Jerdon)	○	○	○								○
20) カドヒメアリ <i>Monomorium sechellense</i> Emery	○	○	○					○			
21) イエヒメアリ <i>Monomorium pharaonis</i> (Linnaeus)		○									
22) サキシマウメマツアリ <i>Vollenhovia sakishimana</i> Terayama et Kinomura		○									
23) ヨコツナアリ <i>Pheidologeton diversus</i> (Jerdon)	○										
24) アミメアリ <i>Pristomyrmex pungens</i> Mayr	○	○									
25) オオウロコアリ <i>Strumigenys solifontis</i> Brown	○	○	○								
26) キバブトウロコアリ <i>Strumigenys exilirhina</i> Bolton	○										
27) ヨフシウロコアリ <i>Strumigenys emmae</i> (Emery)	○		○		○		○				
28) トカラウロコアリ <i>Pyramica membranifera</i> (Emery)	○	○			○						
29) セダカウロコアリ <i>Pyramica hexamera</i> (Brown)	○										

表3. 小笠原群島のアリ類. (続き)

	父島	母島	兄弟島	聳島	媒島	東島	西島	南島	平島	向島
<b>ムカシアリ亜科 Leptanillinae</b>										
1) オガサラムカシアリ <i>Leptanilla oceanica</i> Baroni Urbani					○					
<b>カタアリ亜科 Dolichoderinae</b>										
1) アシジロヒラフシアリ <i>Technomyrmex albipes</i> (F. Smith)	○									
2) ルリアリ <i>Ochetellus glaber</i> (Mayr)	○	○	○							○
3) アワテコヌカアリ <i>Tapinoma melanocephalum</i> (Fabricius)	○	○			○					○
4) キイロコヌカアリ <i>Tapinoma</i> sp.	○	○								
<b>ヤマアリ亜科 Formicinae</b>										
1) ウスヒメキアリ <i>Plagiolepis alluaudi</i> Emery	○	○	○							
2) ヒゲナガアメイロアリ <i>Paratrechina longicornis</i> (Latreille)	○	○	○	○						
3) ケブカアメイロアリ <i>Paratrechina amia</i> (Forel)	○	○	○	○	○	○			○	○
4) オガサワラアメイロアリ <i>Paratrechina ogasawarensis</i> Terayama	○	○	○	○				○		
5) ヒラズオオアリ <i>Camponotus nipponicus</i> Wheeler	○									
6) オガサワラオオアリ <i>Camponotus ogasawarensis</i> Terayama et Satoh	○	○	○	○	○			○	○	○
種数	39	30	24	10	12	3	1	11	6	7 8

出され、島での最普通種の昆虫に位置づけられるとされている。汎熱帯・亜熱帯性のアワテコヌカアリが見い出されることはともかくとして、旧北区系種であるトビイロケアリが亜熱帯の太平洋島である本島の最普通種となることは、同じくトビイロシワアリの本島からの記録とともに、疑問を抱かざるを得ない。また、アカカミアリの同定が確かであるのなら、調査が行われた1952年にはすでに本島に侵入を果たしていたことになり、これが、日本からのアカカミアリの最初の侵入記録ということになる。

近年、防衛庁、農林水産省、及び東京都農林水産部・病害虫防除所の協力のもとに硫黄島と南鳥島のアリの調査が実施され、その結果、硫黄島から3亜科11属18種のアリの生息が確認され、南鳥島からはミゾヒメアリ *Monomorium destructor* とヒゲナガアメイロアリ *Paratrechina longicornis* の2種が確認された。佐藤(1982)の南硫黄島からのケブカハリアリ *Pachycondyla pilosior* の記録を加えると、本列島からは4亜科12属19種のアリが生息していることになる(表4)。硫黄島のアリ相には、放浪種を中心とした広域分布種が圧倒的に多く見られた。東京都で本地域のみに見られる種として、ミゾヒメアリ *Monomorium destructor*、アカカミアリ *Solenopsis geminata*、アシナガキアリ *Anoplolepis gracilipes*、イオウハダカアリ(仮称) *Cardiocondyla* sp. の4種があげられる。

イオウハダカアリは、現在硫黄島からのみ知られている種で、体長1.5 mm、体色は黄褐色で、腹部と触角棍棒節は黒色。後胸刺は針状でやや長く、一見、キイロハダカアリ *Cardiocondyla wroughtonii* に類似するが、後胸溝を欠くことと、後胸刺が短いことで容易に区別される(図6)。

### 考 察

都内で比較的良く調べられている地域として、板橋区(24種; 寺山, 1991)、大田区(43種; 寺山,



表4. 火山列島及び南鳥島（マーカス島）から記録されたアリ類.

他に南硫黄島から *Tetramorium* sp., *Monomorium* sp., *Cardiocondyla* sp., *Paratrechina* sp., *Camponotus* sp. の記録がみられる。( ) : 学名未決定種を含む種数. \*)Sakagami (1961)によるアカカミアリ *Solenopsis geminata*, アワテコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum*, トビイロケアリ *Lasius japonicus* (論文中の *L. niger*), トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae* (論文中の *T. caespitum*) の4種の記録は除外した.

	硫黄島	南硫黄島	南鳥島
<b>ハリアリ亜科 Ponerinae</b>			
1) ケブカハリアリ <i>Pachycondyla pilosior</i> (Wheeler)		○	
<b>フタフシアリ亜科 Myrmicinae</b>			
1) アカカミアリ <i>Solenopsis geminata</i> (Fabricius)	○		
2) クロヒメアリ <i>Monomorium chinense</i> Santschi	○		
3) イエヒメアリ <i>Monomorium pharaonis</i> (Linnaeus)	○		
4) ミゾヒメアリ <i>Monomorium destructor</i> (Jerdon)	○		○
5) ハダカアリ <i>Cardiocondyla nuda</i> (Mayr)	○		
6) キイロハダカアリ <i>Cardiocondyla wroughtonii</i> (Forel)	○		
7) イオウハダカアリ <i>Cardiocondyla</i> sp.	○		
8) オオシワアリ <i>Tetramorium bicarinatum</i> (Nylander)	○	○	
9) サザナミシワアリ <i>Tetramorium simillimum</i> (F. Smith)	○		
10) ツヤオオズアリ <i>Pheidole megacephala</i> (Fabricius)	○		
11) トカラウロコアリ <i>Pyramica membranifera</i> (Emery)	○		
<b>カタアリ亜科 Dolichoderinae</b>			
1) アシジロヒラフシアリ <i>Technomyrmex albipes</i> (F. Smith)	○		
2) アワテコヌカアリ <i>Tapinoma melanocephalum</i> (Fabricius)	○		
<b>ヤマアリ亜科 Formicinae</b>			
1) アシナガキアリ <i>Anoplolepis gracilipes</i> F. Smith	○		
2) ウスヒメキアリ <i>Plagiolepis alluaudi</i> Emery	○		
3) ヒゲナガアメイロアリ <i>Paratrechina longicornis</i> (Latreille)	○		○
4) ケブカアメイロアリ <i>Paratrechina amia</i> (Forel)	○		
5) オガサワラアメイロアリ <i>Paratrechina ogasawarensis</i>			
	Terayama	○	
種	数	18	2 (7) 2 <sup>*)</sup>

1997), 中野区(31種; 久保田・寺山, 1988), 北区(15種; 西村他, 1988), 旧芝離宮恩賜庭園(15種; 無名子, 1982), 国立科学博物館附属自然教育園(43種; 寺山, 2001), 皇居(49種; 寺山, 2000)があげられよう。これらの報告から, 都心部においても公園緑地があれば少なからずのアリが生息していることが分かる。その一方で, 東京都西部と埼玉県との県境となる雲取山(標高2017m)を中心とした奥秩父連峰や奥多摩でのアリ相についてのまとまった報告が見られず, 山地性の種の追加記録がさらに予想される。ヤマクロヤマアリ *Formica lemani* やシワクシケアリ *Myrmica kotokui*, チャイロムネボソアリ *Leptothorax kubira* は山地性の種で, 東京都下ではこの地域に限って見いだされる。ヤマクロヤマアリは東京都からのこれまでの記録を見いだせなかったが(寺山他, 1994)の分布表には東京都のアリとして加えられている, 雲取山の標高約1700m以上の地点で普通に見られる。

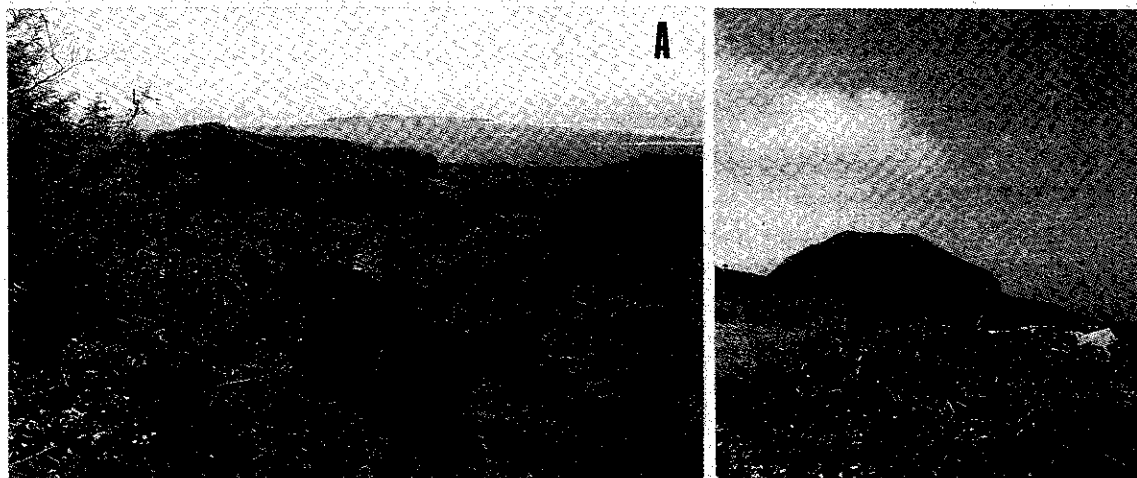


図5. 硫黄島. A: 大坂山より西海岸を望む. 植生はギンネム林. B: 檜鉢山 (標高161 m). 硫黄島の南端に位置し, 本島の最高地点.

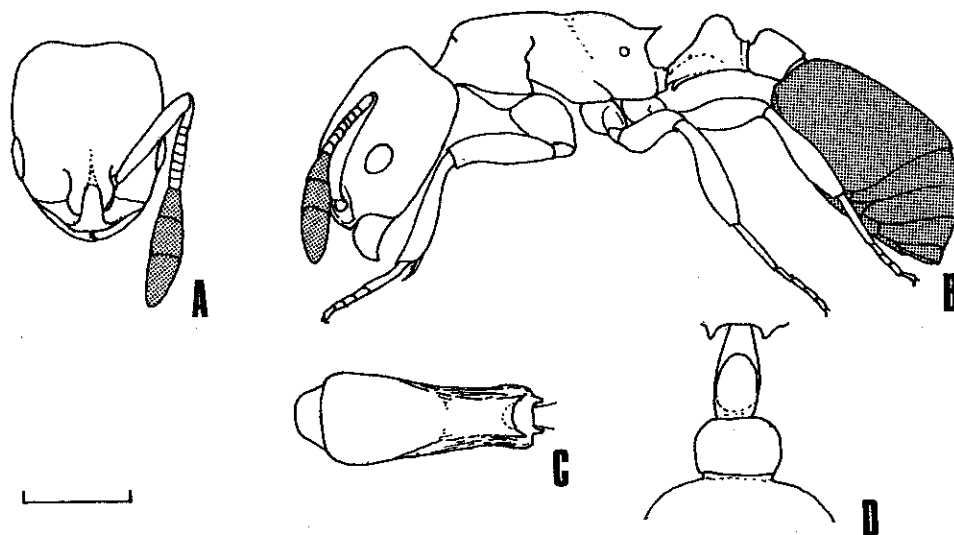


図6. イオウハダカアリ (仮称) *Cardiocondyla* sp., 職蟻 (硫黄島産). A: 頭部, 正面. B: 体部, 側面. C: 胸部, 背面. D: 腹柄節と後腹柄節, 背面. スケール・バーの長さは0.5 mm.

アリでは、交通網の発達に伴い他地域から搬入され、それが採集される場合が少なくない。都内で得られたものとして、沖縄方面から植物とともに持ち込まれて来たと思われるヒゲナガアメイロアリ *Paratrechina longicornis* やアワテコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum* の例(安富・梅谷, 1983; 寺山・奥谷, 1992; 近藤, 1996), 小笠原諸島から都内(大田区)に持ち込まれたオガサワラオオアリ *Camponotus ogasawarensis* の例(寺山, 1997)がある。さらに現在、東京都内や神奈川, 埼玉, 茨城県の各所で建物中にイエヒメアリ *Monomorium pharaonis* が発生し被害をもたらしている(久保田, 1983; 寺山, 1997)。本種は戦前から物資の輸送に付随して東京への侵入が見られたが、南方系の本種は関東地方では野外での越冬は不可能であると考えられていた。ところが、戦後の建築物の発展に伴い、蓄熱効果の高くなった建物中で年間を通じて生息できるようになってしまい、多女王制の本種は近年しばしば屋内で大增殖するケースも見られるようになった。その他、以前は全く見られなかったが近年になって分布を拡大し、関東平野各所で急激に姿を見かけるようになった種として、クロニセハリアリ *Hypoponera nubatama* があげられ、特に荒川や利根川の河川敷のように攪乱された環境に多く生息する(寺山, 1997)。本種では女王に2型があり、通常の翅を持つものと、初めから翅を持たず一見大形の働きアリのような形態をしたものが存在する。雄アリにおいても同様で有翅と無翅の型が見られる。さらに、近年府中市の東京農工大学の構内から、クシフタフシアリ亜科 *Pseudomyrmicinae* のナガフシアリ属 *Tetraoponera* に属するナガフシアリ *Tetraoponera allaborans* が得られており(2 workers, 11. VII. 2000), 青梅市畑田からはキイロオオシワアリ *Tetramorium nipponense* が得られている(1 worker, 1. IIV. 2001)。キイロオオシワアリは伊豆大島や青ヶ島での生息が確認されているが、東京都本土での採集例は人為的移入によるものと思われる。また、ナガフシアリは土着種とは考えられず、おそらく東南アジアの他地域からもたらされたものであると推定される。さらに、府中市の多摩川河川敷においてエゾクシケアリ *Myrmica jessensis* が得られているが、上流から流されてきたものが、一次的に定着、営巣しているものと判断される。

伊豆諸島は国内でもアリ相が比較的良く調べられている地域で、基本的に本州平野部と同一のアリ相を示している。本諸島では本土と同様にヤマアリ属 *Formica* やケアリ属 *Lasius* の種が多く見られ、これらの属に所属する種は小笠原諸島では全く見られない。関東地方に記録がなく伊豆諸島のみから得られている種は6種で、青ヶ島からツヤサクラアリ *Paratrechina* sp. が、八丈島からフシナガムネボソアリ *Leptothorax antera*, ツヤシリアゲアリ *Crematogaster nawai*, キイロコヌカアリ *Tapinoma* sp. が、御蔵島からイツツバアリ *Acropyga nipponensis* が、利島からヒメセダカウロコアリ *Pyramica hirashimai* が得られている。伊豆諸島は本土から比較的近い距離にあるが、いずれの島も火山起源のものであり、海流に乗って南方から伊豆諸島にたどり着いた種が存在する可能性は大であろう。特に青ヶ島は、約200年前の大噴火で生物相は完全に消滅したとされており、現在のアリ相もそれ以降のものである。種組成の面では、伊豆諸島は基本的に関東平野と同一のアリ相と言える。ただし島ごとに、あるいは個々の種ごとに詳細に検討すると分布や密度に相違も見い出され、例えば本土で普通に見られるクロヤマアリ *Formica japonica* やクロオオアリ *Camponotus japonicus* は御蔵島まで見られるが、それより南の島には生息しておらず、その一方で、関東平野では稀なオオシワアリ *Tetramorium bicarinatum* やヒメオオズアリ *Pheidole pili*, ルリアリ *Ochetellus glaber*, アメイロオオアリ *Camponotus devestivus*, ヒラズオオアリ *Camponotus nipponicus* 等は八丈島では普通に見られる。伊豆諸島では、アシナガアリ *Aphaenogaster famelica* とヤマトアシナガアリ *Aphaenogaster japonica* が一つの島でどちらか一方の種のみが生息しており、面積の大きな屋久島において2種が垂直的に住み分けていることを勘案すると、2種間に競争的排他則が働いていることも考えられそうである。

亜熱帯に位置する小笠原群島のアリ相は、伊豆諸島や東京都本土と比べて種組成は大きく異なる。人類の交易の発達に伴って他地域から侵入し、熱帯・亜熱帯を中心に広く分布を広げた放浪種(tramp species)の割合の大きさは特筆に値する。これらの種は、攪乱された環境に侵入定着し、森林にはほとんど入り込めない。よって、熱帯や亜熱帯地域において、攪乱の程度の大きい地域ほどこの放浪種の占める割合が高くなることが知られている。20世紀初頭から著しい環境破壊を受けてきた小笠原群島に至っては、すでに非常に高い割合で放浪種の侵入を受けており、種数が本来生息するであろうものの2倍にも高まっていると推定され、非調和なファウナとなっている(寺山・長谷川, 1992; 寺山, 1999)。このことは、小笠原群島の大規模な環境攪乱の歴史が例えば琉球列島等よりも古くからより徹底的になされた事とともに、本群島が遠く離れた海洋島の特徴的な生態系であることにも影響していると思われる。また、南西諸島との共通種も存在し、海流の影響が考えられる。例えば、南西諸島との共通種であるハナダカハリアリ *Cryptopone tengu*、キバプトウロコアリ *Strumigenys exilirhina* やヤエヤマウメマツアリ *Vollenhovia yaeyamensis* は、これによって本群島にたどり着き定着した可能性が高い。前述の通り旧北区系のケアリ属 *Lasius* とヤマアリ属 *Formica* の種を欠くとともに、シリアゲアリ属 *Crematogaster* の種も得られていない。またオオアリ属 *Camponotus* も少なく、都本土で12種、伊豆諸島で8種が得られているのに対して本群島ではわずかに2種が生息するにすぎない。その一方で、オオズアリ属 *Pheidole* (5種)、ハダカアリ属 *Cardiocondyla* (3種)、シワアリ属 *Tetramorium* (5種)の種が多く見られる。

火山列島のアリ相は十分な調査がなされているとは言えないが、小笠原群島との共通種が最も多く、かつそれらは放浪種を中心とした広域分布種である。

欧米でカミアリあるいはヒアリ (fire ants) として有名なアリの一種で、中・南米原産のアカカミアリ *Solenopsis geminata* が硫黄島の至るところで見られ優占種となっていることは、近年の知見として無視できないことであろう(図7, 8)。硫黄島で増殖している本種は、ヒトの居住空間を中心とした人為的に攪乱された開けた環境に好んで生息すると同時に、アルカロイド系の強い毒を持ち、本種に刺されアナフィラキシーショックを引き起こした被害例も知られている。同時に農作物や家畜への被害が大きく、かつ生態系の攪乱を引き起こす問題の多いアリである。本種には、おそらく米軍の輸送物資とともに海外から南西諸島の沖縄島や久米島に一時的に侵入した経緯がある(南鳥島からのアカカミアリの記録には同定に疑問が残るので、ここでは除く)。硫黄島においても、1968年までは米軍の施政下であり、米軍基地になっていたことから、おそらく米軍の海外からの輸送物資に付随して運び込まれ、それが定着したものであることが考えられる。次の段階として、本種の本土や小笠原群島への侵入の可能性も考えられ、厳重な警戒が必要であろう。

小笠原群島と火山列島で構成される小笠原諸島から得られているツヤオオズアリ *Pheidole megacephala*、サザナミシワアリ *Tetramorium similimum*、アシナガキアリ *Anoplolepis gracilipes* は日本では奄美諸島以南に分布し、特にツヤオオズアリは海岸付近の乾いた環境に多く見られる。アシジロヒラフシアリ *Technomyrmex albipes* は樹上に多く営巣し、鹿児島、宮崎、高知以南に、アワテコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum* は鹿児島、宮崎以南(広島からも記録されているが人為的移入によるものであろう)に分布する。硫黄島と南鳥島から記録されたミゾヒメアリ *Monomorium destructor* は、日本ではまれで、他に沖縄島と八重山諸島の黒島からのみ得られている。

東京都下の各地域に限って見られる種の要約を以下に示す。東京都において、東京都本土にのみ得られた種は21種、伊豆諸島で8種、小笠原諸島では20種、そして火山列島では4種となる。また、小笠原諸島と火山列島の両地域だけに生息する種は9種おり、小笠原群島のみに見られるアリは33種にのぼる。亜熱帯に位置する小笠原諸島の存在が、東京都においてより多くのアリを記録させていることになる。

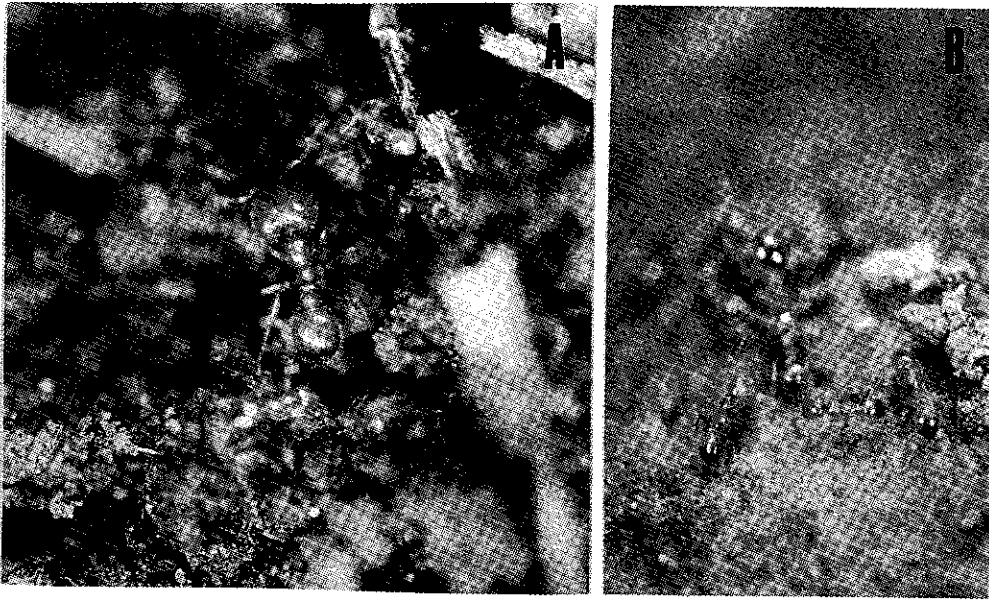


図7. 硫黄島のアカカミアリ *Solenopsis geminata*. A: 大形働きアリ(兵アリ). B: 小形働きアリ.



図8. 硫黄島のアカカミアリの巣. 北米の他のアカカミアリ類 *Solenopsis invicta* や *S. richteri* のものに比べるとマウンドは低い, 長径で50 cmを超えるものも少なくなく, 巣の確認は容易である. マウンドには複数の巣口が開いている.

1)東京都では都本土のみに分布する種(21種).

*Hypoponera nubatama*, *Cerapachys humicola*, *Myrmica kotokui*, *M. jessensis*, *Stenammina nipponense*, *Messor aciculatus*, *Leptothorax kubira*, *L. koreanus*, *L. arimensis*, *Monomorium triviale*, *Myrmecina flava*, *Technomyrmex gibbosus*, *Dolichoderus sibiricus*, *Lasius capitatus*, *Formica hayashi*, *F. lemani*, *Polyergus samurai*, *Camponotus quadrinitatus*, *C. nipponensis*, *C. yamaokai*, *C. itoi*.

2)東京都では伊豆諸島のみに分布する種(10種). #: 関東地方を含めて伊豆諸島のみに分布する種(6種).

*Discothyrea sauteri*, *Laptothorax antera*#, *Crematogaster nawai*#, *C. vagula*, *Pyramica hirashimai*#, *P. mutica*#, *Acropyga sauteri*, *A. nipponense*#, *Paratrechina sp.*#, *Polyrhachis moesta*.

3)東京都では小笠原諸島のみに生息する種(20種). #: 日本では小笠原諸島のみに見られる種(2種).

\*: 小笠原諸島特産種(5種).

*Pachycondyla sp.*, *Cryptopone tengu*, *Ponera swezeyi*#, *Hypoponera bondroiti*, *Leptanilla oceanica*\*, *Aphaenogaster edentula*\*, *P. fervens*, *P. susanowo*, *Leptothorax haira*\*, *L. santra*\*, *Cardiocondyla tsukuyomi*, *Tetramorium lanuginosum*, *T. tonganum*#, *Monomorium floricola*, *M. sechellense*, *Vollenhovia yaeyamensis*, *Pheidologeton diversus*, *Strumigenys exilirhina*, *S. emmae*, *Camponotus ogasawarensis*\*.

4)東京都では火山列島(含南鳥島)のみに生息する種(4種).

*Solenopsis geminata*, *Monomorium destructor*, *Cardiocondyla sp.*, *Anoplolepis gracilipes*.

5)東京都では小笠原群島(小笠原諸島+火山列島)に生息する種(9種). #: 日本では小笠原群島のみに見られる種(1種). \*: 小笠原群島特産種(1種).

*Pheidole megacephala*, *Cardiocondyla wroughtonii*, *Tetramorium simillimum*, *Technomyrmex albipes*, *Tapinoma melanocephalum*, *Plagiolepis alluaudi*#, *Paratrechina longicornis*, *P. amia*, *P. ogasawarensis*\*.

6)東京都では伊豆諸島+小笠原諸島・火山列島に生息し、東京都本土からは得られていない種(8種).

#: 東京都では伊豆諸島+小笠原諸島・火山列島に生息し、関東地方から得られていない種(2種).

*Pheidole pieli*, *P. indica*, *Tetramorium bicarinatum*, *T. nipponense*#, *Monomorium chinense*#, *Strumigenys solifontis*, *Tapinoma sp.*, *Cardiocondyla nuda*.

伊豆諸島以南に生息するが東京都本土からは偶産記録を除き分布記録のないものが8種存在する。ヒメオオズアリ *Pheidole pieli*は東京都下からは得られていないが、関東地方では神奈川、千葉、埼玉県からの記録がある。インドオオズアリ *Pheidole indica*の関東地方での分布は物資の輸送に伴った人為分布と思われる、記録のある千葉県、埼玉県ではいずれも駅付近や人家のように攪乱された環境から得られている。オオシワアリ *Tetramorium bicarinatum*は千葉、神奈川県からの記録があるほか、埼玉県ではさ

いたま市(旧与野市)から、植木鉢に営巣したものが人為的に植木鉢ごと他地域から運ばれて来たものが得られている。キイロオオシワアリ *Tetramorium nipponense* は愛知県以南に分布する(宮城県からも得られているが、人為的移入であろう。本報で青梅市からの偶産記録を載せている)。またクロヒメアリ *Monomorium chinense* の分布も愛知県までである。オオウロコアリ *Strumigenys solifontis* は関東地方では茨城、栃木、埼玉、千葉、神奈川の諸県から記録されている。伊豆諸島の八丈島や小笠原諸島では少ない。コヌカアリ *Tapinoma* sp. は神奈川と千葉の海岸沿いから得られている。またハダカアリ *Cardiocondyla nuda* は乾燥の強い環境に生息し、関東地方では神奈川と千葉の海岸沿いから得られている。これらの種は分布の北限が本土では本州太平洋岸にある種で、かつ東京都本土でも今後記録される可能性があるだろう。

## 謝 辞

本報をまとめるにあたり、東京都のアリに関する資料、情報提供、あるいは調査協力をいただいた石塚勝己、長谷川英祐、佐藤俊幸、西村正賢、増子恵一、丸山宗利、村田和彦、山口 剛、吉田 進の各氏に感謝の意を表す。文献入手では前川清人氏にお世話いただいた。さらに硫黄島の調査を実施するにあたってお世話になった農林水産省、防衛庁、東京都病害虫防除所、東京都農林水産部の関係者諸氏にもお礼申し上げる。

## 参考文献

- 1) 飯田 実, 1948. サムライアリにおける働蟻の産卵. 新昆虫, 1(6): 289.
- 2) 飯田 実, 1954. サムライアリについて. はち(蜂の会), (9): 11-12.
- 3) Ito, T., 1914. Formicidarum Japonicarum species novae vel minus cognitae. Ann. Soc. Ent. Belgique, 58: 40-45
- 4) Imai, H. T., 1966. The chromosome observation techniques of ants and the chromosomes of Formicinae and Myrmicinae. Acta Hymenopterologica, 2: 119-131.
- 5) Imai, H. T., 1969. Karyological studies of Japanese ants I. Chromosome evolution and species differentiation in ants. Sci. Rep. Tokyo Kyoiku Daigaku, Sec. B., 14: 27-46.
- 6) Imai, H. T., 1971. Karyological studies of Japanese ants II. Species differentiation in *Aphaenogaster*; with special regard to their morphology, distribution and chromosomes. Mushi, 44: 137-150.
- 7) 太田幸好, 1931. 岐阜県産蟻類目録. 昆虫世界, 35: 13-17.
- 8) 太田幸好, 1935. 日本産蟻類. 昆虫世界, 39: 8-11.
- 9) 太田幸好, 1939. 日本産介殻虫, 蚜虫と共生生活を営む蟻類. 昆虫世界, 43: 295-298.
- 10) 岡田一次・丸山 威, 1986. ミツバチとアリ類との生態関係. 昆虫と自然, 21(6): 19-22.
- 11) 大野 熙, 1980. 野外指導の実践 アリの観察. 教材生物ニュース, 59: 116-121.
- 12) 大野正男, 1977a. 動物に関する調査. 小笠原・母島道路計画にともなう自然環境調査報告書, 9-14.
- 13) 大野正男, 1977b. 動物に関する調査—動物相からみた母島道路改修の問題点—. 小笠原・母島道路計画にともなう自然環境調査報告書, 103-117.
- 14) 大野正男, 1973. 東京都区内における土壌動物の分布(1). 都市生態系の特性に関する基礎研究,

139-156.

- 15) 岡島美代子, 1974. 伊豆大島のアリ類. 千葉敬愛短大生物研究会報, (6): 43-46.
- 16) 小野 勇, 1935. 蟻の奴隷狩りを観るの記. 博物同志会会報(鹿児島高等農林学校博物同志会), 4: 116-118.
- 17) Onoyama, K., 1989. Notes on the ants of the genus *Hypoponera* in Japan (Hymenoptera: Formicidae). *Edaphologia*, (41): 1-10.
- 18) Onoyama, K. & M. Terayama, 1999. A new species of the ant genus *Pheidole* Westwood from Japan (Hymenoptera; Formicidae). *Mem. Myrmecological Soc. Japan*, 1: 65-69.
- 19) 川合 誠, 1942a. 日本産サムライアリの産卵の一例. 昆虫界, 10: 514-518.
- 20) 川合 誠, 1942b. 東京産蟻類に就いての小観察. 昆虫界, 10: 1-16.
- 21) 川合 誠, 1942c. 「東京産蟻類に就いての小観察」の追記其他. 昆虫界, 10: 684-685.
- 22) 北区役所建築環境部環境保全課(編), 1988. 北区昆虫類目録. 北区昆虫調査報告書, 北区, 72-111.
- 23) 久保田敏, 1986. クロクサアリ類のtrailについて. 蟻(日本蟻類研究会), (14): 1.
- 24) 久保田敏・寺山 守, 1987. 東京都のアリ. 蟻, (15): 3-4.
- 25) 久保田敏・寺山 守, 1989 (1988). 東京都アリ類分布資料 (I) 市街地公園内におけるアリの採集例. 蟻, (16): 14-16.
- 26) 久保田敏・寺山 守, 2001. 東京都のアリ. 東京都の生き物(日本生物教育会第56回全国大会東京大会記念誌), 138-140.
- 27) 久保田正雄, 1976. 小笠原のウロコアリ. 蟻, 7: 4.
- 28) 久保田政雄, 1977. アリに関する記録(1). 蟻, (8): 4.
- 29) 久保田政雄, 1983. アリに関する記録(3). 蟻, (11): 7-8.
- 30) 久保田正雄, 1988. ありとあらゆるアリの話. 講談社, 185 pp.
- 31) 近藤正樹, 1966. 自然教育園の林内に棲息するアリ. 自然教育園の生物群集に関する調査報告書 第1集: 129-130.
- 32) 近藤正樹, 1972. 都市化に伴うアリ相の変化. バイオテクノロジー, 3(1): 5-12.
- 33) 近藤正樹, 1975. 都市化とアリたち. 生態学講座月報(共立出版), (16): 3-5.
- 34) 近藤正樹, 1996. 東京にアワテコヌカアリが現れる. 蟻, (20): 15.
- 35) Kondoh, M., 1976. Seasonal changes in the amount of syrup absorption by *Formica japonica* colonies. *Mem. Shiraume Gakuen Coll.*, 12: 29-33.
- 36) Kondoh, M., 1978. A comparison among ant communities in the anthropogenic environment. *Memorabilia Zoologica*, 29: 79-92.
- 37) 酒井春彦, 1980. アリの研究. 初等理科教育, 14(5): 84-87.
- 38) 佐藤正孝, 1982. 南硫黄島の昆虫相. 南硫黄島原生自然環境保全地域調査報告, 環境庁自然保護局, 303-327.
- 39) 佐藤正孝, 1982. 南硫黄島昆虫調査紀行. 月刊むし, (147): 4-8.
- 40) 里山昆虫研究会, 1995. 多摩川中流域の丘陵部における里山昆虫の研究. 229 pp.
- 41) 沢田和宏, 1986. アカアリツカエンマシ東京都の採集例. 月刊むし, (190): 15.
- 42) 進藤正男, 1979. 小笠原のアリ. 昆虫と自然, 14: 24-28
- 43) 進藤正男, 1980. ハダカアリ (*Cardiocondyla* sp.) のコロニー形成について. 東京都生物研究会会誌, (16): 19-23.



- 44) 進藤正男, 1981. 自然教育園のアリ類. 自然教育園報告(国立科学博物館附属自然教育園), (12): 101-102.
- 45) 進藤正男, 1982. ハダカアリ(*Cardiocondyla* sp.)における職型雄の交尾行動について. 東京都生物研究会会誌, (18): 16-17.
- 46) 進藤正男, 1990. 自然教育園のアリ類. 自然教育園報告, (21): 83-86.
- 47) 田中貢一, 1925. 興味ヲソル蟻ノ種子運搬. 植物研究雑誌, 3: 16-17.
- 48) 田野口康彦, 1980. 富士山で得られた蟻塚虫について. 蟻, (9): 1-2.
- 49) 田村 栄, 1951. アリマキを飼うトビイロケアリ. 昆虫の生態, 誠文堂新光社: 152.
- 50) 寺西 暢, 1915. A new species Formicidae from Japan. 昆虫学雑誌(京都), 1: 137-138.
- 51) 寺西 暢, 1925. 某氏採集の蟻類. 科学の農業, 6(5): 53-55.
- 52) 寺西 暢, 1928. 日本産蟻類雑記一. 異常形. 動物学雑誌, 39: 88-94.
- 53) 寺西 暢, 1929a. 日本産蟻類の習性と分布(一). 動物学雑誌, 41: 239-251.
- 54) 寺西 暢, 1929b. 日本産蟻類の習性と分布(二). 動物学雑誌, 41: 312-332.
- 55) 寺西 暢, 1933. 日本産蟻類の習性と分布(III). 関西昆虫学会会報, (4): 77-80.
- 56) 寺西 暢, 1940. On the ants of Korea(朝鮮産蟻類に就きて). 寺西暢遺稿集, 未発表遺稿: 1-30.
- 57) 寺西 暢, 1944. 日本産二節蟻亜科に就きて(大正九年東京農業大学卒業論文). 戸沢信義編・刊行, 30 pp.
- 58) 寺山 守, 1981. 関東各都県におけるアリツカコオロギの記録. 神奈川虫報, (62): 15-19.
- 59) 寺山 守, 1985. 昆虫 JTBブックスカラー図鑑11. 日本交通公社(松本忠夫監修), 223 pp.
- 60) 寺山 守, 1986a. アリ科. 板橋区昆虫類等実態調査 昆虫類・真正クモ類・両生類・爬虫類・哺乳類, 板橋区, 125-126.
- 61) 寺山 守, 1986b. アリ. 日本の昆虫-侵略と攪乱の生態学-, 東海大学出版会, 43-51.
- 62) 寺山 守, 1991a. アリ科. 板橋区昆虫類等実態調査(II), 板橋区, 120-121.
- 63) 寺山 守, 1991b. アリ群集における種数・面積関係. 桐朋学園女子部研究紀要, (6): 1-16.
- 64) 寺山 守, 1992a. アリ. 小笠原の自然-東洋のガラバゴス, 古今書院, 120-121.
- 65) 寺山 守, 1992b. 東アジアにおけるアリの群集構造 I. 地域性および種多様性. 日本生物地理学会会報, 47: 1-31.
- 66) 寺山 守, 1995a. 伊豆-小笠原-マリアナ島弧のアリ相と生物地理. 北マリアナ探検航海記, 文一総合出版, 286-293.
- 67) 寺山 守, 1995b. 東京都アリ類分布資料(III) 3新記録種. 蟻, (19): 17.
- 68) 寺山 守, 1997a. 都市化とアリの関係. 立正大学地域研究センター年報, (21): 117.
- 69) 寺山 守, 1997b. 多様性保護の視点からの環境保全-アリ群集を用いた研究を中心に-. 生物科学, 49: 75-83.
- 70) 寺山 守, 1997c. 大田区のアリ類(ハチ目). 大田区自然環境保全基礎調査報告書, 大田区, 189-194.
- 71) 寺山 守, 1999a. 南西諸島の生物地理. 山根正気・幾留秀一・寺山 守共著, 琉球列島産有剣ハチ・アリ類検索図説, 北大図書刊行会, 39-59.
- 72) 寺山 守, 1999b. アリ科. 山根正気・幾留秀一・寺山 守共著, 琉球列島産有剣ハチ・アリ類検索図説, 北大図書刊行会, 138-317.
- 73) 寺山 守, 2000a. 「日本産アリ類の検索と解説I, II, III」以降の学名変更種一覧(2). 蟻, (24): 13-21.

- 74) 寺山 守, 2000b. 皇居のアリ. 国立科博専報, (36): 361-368.
- 75) 寺山 守, 2001. 自然教育園のアリ類: 種組成, 出現頻度, 巣密度. 自然教育園報告(国立科学博物館 附属自然教育園), (33): 365-376.
- 76) 寺山 守・奥谷禎一, 1992. 東京都内で得られたアワテコヌカアリ. 家屋害虫, 14: 7-8.
- 77) 寺山 守・木原 章, 1994. 日本産アリ類県別分布図. 日本蟻類研究会, 63 pp.
- 78) 寺山 守・久保田敏, 1994. 東京都アリ類分布資料(2)青ヶ島のアリ. 蟻, (17): 11.
- 79) 寺山 守・長谷川英祐, 1992. 小笠原群島のアリ相. 小笠原研究年報, 東京都立大学, (15): 40-51.
- 80) 寺山 守・村田和彦, 1987. 伊豆諸島利島におけるアリ群集と植生との関連. 日本生物地理学会会報, 42: 57-63.
- 81) 寺山 守・村田和彦, 1990. 自然保護区を設定する際の保護区の面積と分断の効果: アリ群集を用いての検討. 日本生物地理学会会報, 45: 11-17.
- 82) Terayama, M., 1983. Biogeographic study of the ant fauna of the Izu and the Ogasawara Islands. Bull. Biogeogr. Soc. Japan, 38: 93-103.
- 83) Terayama, M., 1985. Two new species of the genus *Acropyga* (Hymenoptera, Formicidae) from Taiwan and Japan. Kontyū, 53: 284-289.
- 84) Terayama, M., 1999. Taxonomic studies of the Japanese Formicidae, Part 5. genus *Paratrechina* Motschoulsky. Mem. Myrmecological Soc. Japan, 1: 49-64.
- 85) Terayama, M. & K. Onoyama, 1999. The ant genus *Laptothorax* Mayr (Hymenoptera: Formicidae). Mem. Myrmecological Soc. Japan, 1: 71-97.
- 86) Terayama, M. & K. Kinomura, 1998 (1997). Taxonomic studies of Japanese Formicidae part 3: genus *Vollenhovia* Mayr. Nature and Human activities, 2: 1-8.
- 87) Terayama, M. & T. Satoh, 1990. *Camponotus (Myrmamblys) ogasawarensis* sp. nov. from the Ogasawara Islands, Japan (Insecta, Hymenoptera, Formicidae). Bull. Biogeogr. Soc. Japan, 45: 117-121.
- 88) Terayama, M., S. Miyano, & T. Kurozumi, 1994. Ant fauna (Insecta: Hymenoptera: Formicidae) of the Northern Mariana Islands, Micronesia. Nat. Hist. Res. Special Issue, (1): 231-236.
- 89) Terayama, M., C. Lin & Wu, 1996. The Taiwanese species of the ant genus *Smithistruma* (hymenoptera, Formicidae). Jpn. J. Ent., 64: 327-339.
- 90) 中野定一・吉田 晶, 1939. 蟻と共棲している本邦産蟻塚虫に就て. 関西昆虫学会会報, (8): 92-93.
- 91) 南部敏明, 1993. 東京都武蔵村山市中藤新福寺で採集した膜翅目. 埼玉動物研通信, (12): 11.
- 92) 西村正賢・新井一政, 1989. 小笠原諸島父島および母島において1987年に記録された昆虫について. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (18): 35-45.
- 93) 西村正賢・武田雅志・桑川和子, 1988. 北区昆虫目録. 北区の昆虫, 北区, 227-246.
- 94) 日本蟻類研究会(編), 1989. 日本産アリ類の検索と解説 (I). ハリアリ亜科, クビレハリアリ亜科, クシフタフシアリ亜科, サスライアリ亜科, ムカシアリ亜科. 日本蟻類研究会, 42 pp.
- 95) 日本蟻類研究会(編), 1991. 日本産アリ類の検索と解説 (II). カタアリ亜科, ヤマアリ亜科. 日本蟻類研究会, 56 pp.
- 96) 日本蟻類研究会(編), 1992. 日本産アリ類の検索と解説 (III). フタフシアリ亜科, ムカシアリ亜科(補追). 日本蟻類研究会, 94 pp.

- 97) 長谷川仁, 1949. 銀座で昆虫採集. 新昆虫, 2(4): 4-6.
- 98) 長谷川仁, 1983. 木に住みつく銀座のアリ. ペンギン・クエスチョン, 1(3): 38-39.
- 99) 長谷川仁, 1988. 木に住みつく銀座のアリ. 都市の昆虫誌. 思索社, 19-26.
- 100) 馬場喜之, 1947. 蟻の生活より(二)二種のオホアリ. 生態昆虫, 2: 17-19.
- 101) 馬場喜之, 1951. 蟻の生活より(III). 生態昆虫, 3: 99-102.
- 102) 馬場喜敬, 1969. アリの国探訪. 明玄書房, 165 pp.
- 103) 馬場喜敬, 1970. クロナガアリの園. 昆虫と自然, 5(4): 9-11.
- 104) 馬場喜敬, 1972. 都会の空とアリ-高層建築の博物誌の一頁-. 昆虫と自然, 7(10): 24.
- 105) 馬場喜敬, 1974. 都会の空とアリ(2)-マンションとアリの話-. 昆虫と自然, 9(4): 27-29.
- 106) 馬場喜敬, 1974. 続アリの国探訪. 明玄書房, 182 pp.
- 107) Baroni Urbani, C., 1977. Materiali per una revisione della sottofamiglia Laptanillinae Emery (Hymenoptera: Formicidae). Ent. Basil., 2: 427-488.
- 108) Forel, A., 1900. Fourmis du Japon. Nids en toile. *Strongylognathus Huberi* et voisins. Fourmilière triple. *Cyphomyrmex Wheeleri*. Fourmis importées. Bull. de la Soc. Ent. Suisse, 10(7): 267-287.
- 109) Forel, A., 1912. Quelques fourmis de Tokio. Ann. Soc. Ent. Belg., 56: 339-342.
- 110) Forel, A., 1918. Études myrmécologiques en 1917. Bull. Soc. Vaud. Sci. Nat., 51: 717-727.
- 111) 藤田朋子・大塚ちかこ・宇野リベカ, 1981. 自然教育園内の四林分で調査した大型土壌無脊椎動物について. 自然教育園報告, (12): 31-75.
- 112) 古川春男・青木 良, 1974. 東京都区内の夏の昆虫. 昆虫と自然, 9(4): 21-22.
- 113) Wheeler, W. M., 1928. Ants collected by Professor F. Silvestri in Japan and Korea. Boll. Lab. Zool. Gen. Agrar. Portic., 21: 96-125.
- 114) Bolton, B., 1977. The ant tribe Tetramoriini (Hymenoptera: Formicidae). The genus *Tetramorium* Mayr in the Oriental and Indo-Australian regions, and in Australia. Bull. Br. Mus. Nat. Hist. (Ent.), 36: 67-151.
- 115) 前川直樹, 1986. クロナガアリの脱翅雌の造巣に関する記録. 蟻, (14): 8.
- 116) 増子恵一, 1982. 三宅島のアリ相についての一資料. 蟻, (10): 1-2.
- 117) 増子恵一・山岡寛人・神成忠男・薄葉 重, 1985. 清澄山のアリ類. (4)清澄山周辺のアリ目録その3. 清澄, (11): 9-12.
- 118) 増子恵一・寺山 守, 1984. 伊豆・小笠原のアリ採集目録. 蟻, (12): 7-12.
- 119) 増子恵一・寺山 守, 1986. 伊豆・小笠原のアリ採集目録(補遺). 蟻, (14): 7.
- 120) 町田徳治, 1947. ドクグモがトビロケアリを捕ふ. 日本蜂類談話会誌, 1(3): 22.
- 121) 水上哲朗, 1984. 伊豆七島における蟻類調査記録(1983年度). 早稲田生物, (27): 70-76.
- 122) 安富和男・梅谷猷二, 1983. 衛生害虫と衣食住の害虫. 全国農村教育協会, 310pp.
- 123) Yamauchi, K., 1979. Taxonomical and Ecological studies on the ant genus *Lasius* in Japan (Hymenoptera: Formicidae). I. Taxonomy. Sci. Rep. Fac. Educ., Gifu Univ. (Nat. Sci.), 6(2): 147-181.
- 124) Yamauchi, K., 1980. Taxonomical and Ecological studies on the ant genus *Lasius* in Japan (Hymenoptera: Formicidae). II. Geographical distribution, habitat and nest site preferences and nest structure. Sci. Rep. Fac. Educ., Gifu Univ. (Nat. Sci.), 7(3): 420-433.

- 125) Yamauchi, K., & K. Hayashida, 1970. Taxonomic studies on the genus *Lasius* in Hokkaido with ethological and ecological notes. II. The subgenus *Lasius*. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ., 17: 501-519
- 126) 矢野宗幹, 1909. 蟻雑話一. 日本産の奴隷つくり. 博物之友, 9(69): 79-80.
- 127) 矢野宗幹, 1909. 蟻巢中に棲息する虹の幼虫. 昆虫世界, 19: 2-9.
- 128) 矢野宗幹, 1910. 日本産蟻類に就きて. 動物学雑誌, 22: 416-425.
- 129) Yano, M., 1911. A new slave-making ant from Japan. Psyche, 18: 110-112.
- 130) 矢野宗幹, 1912. 日本産奴隷を役する蟻類及其近種. 動物学雑誌, 24: 121-130.
- 131) 矢野宗幹, 1927. オホツアカアリとアツマオホツアカアリの分布. 昆虫, 2: 134-136.
- 132) 矢野宗幹, 1938. 茨城県の蜂と蟻(1). 茨城博物同好会誌, (5): 1-5.
- 133) 矢野宗幹, 1940. 蟻に親しみ. 動物文学, 7(5): 15-18.
- 134) 矢野宗幹, 1946. くろながありノ観察. 日本蜂類談話会会誌, 1(1): 1-2.
- 135) 矢野宗幹, 1953. 蟻の結婚飛翔-ふしぎなその性生活-. 文芸春秋, 31(11): 161-165.
- 136) 山口 剛, 1985. ムネボソアリと他のアリ類の関係-予報. 蟻, (13): 2.
- 137) 山口 剛, 1987. 多摩川河川敷におけるムネボソアリの生態(予報). 蟻, (15): 2.
- 138) 山崎柄根・渡辺信敬・寺山 守・長谷川英祐, 1991. 小笠原諸島の昆虫類の現況. 第2次小笠原諸島自然環境現況調査報告書, 東京都立大学, 197-205.
- 139) 吉田 進, 1999. 町田市で採集された珍しいアリ類. 神奈川虫報, (128): 37-39.
- 140) Watanabe, H. & Sk. Yamane, 1999. New species and new status in the genus *Aphaenogaster* (Formicidae) from Japan. Identification guide to the Aculeata of the Nansai Islands, Japan, Hokkaido University Press, 728-736.
- 141) 無名子, 1982. 昆虫類目録. 旧芝離宮恩賜庭園環境調査生物調査(I) 報告書, 東京瓦斯株式会社, 328-345.

追加文献

- 142) 大野 照, 1985. アリの検索とその学習. 生物観察実験ハンドブック, 浅倉書店, 379-383.
- 143) 高橋敬一・大林隆司・宗田奈保子, 2000. 小笠原父島における貯穀害虫およびその天敵相. Jpn. J. Ent., (N. S.), 3: 97-103.
- 144) 寺山 守・緒方一夫・崔 炳文, 1994. 日本産アリ類都道府県別分布表. 蟻, (18): 5-17.
- 145) 府中の昆虫ガイドブック編集委員会(編), 1983. 府中の昆虫ガイドブック. 府中市, 223 pp.
- 146) Bryan, W. A., 1903. A monograph of Marcus island. Bernice P. Bishop Museum. Occas. Pap., 2(1): 77-126.
- 147) Sakagami, S. F., 1961. An ecological perspective of Marcus island, with special reference to land animals. Pacific Science, 15: 82-104.
- 148) 寺山 守, 2002. 外来のアリがもたらす問題-アカカミアリとアルゼンチンアリを例に-. 昆虫と自然, 37(3): 16-19.

付表. 東京都全域のアリ類. 生息域: M, 東京都本土; I, 伊豆諸島; O, 小笠原群

ハリアリ亜科 Ponerinae(17種)

- 1) ノコギリハリアリ *Amblyopone silvestrii* (Wheeler) M, I, O
- 2) イトウカギバラアリ *Proceratium itoi* (Forel) M, I
- 3) ヤマトカギバラアリ *Proceratium japonicum* Santschi M, I
- 4) ワタセカギバラアリ *Proceratium watasei* (Wheeler) M, I
- 5) モリシタカギバラアリ *Proceratium morishitai* Onoyama et Yoshimura M, I
- 6) ダルマアリ *Discothyrea sauteri* Forel I
- 7) オオハリアリ *Pachycondyla chinensis* (Emery) M, I, O
- 8) ケブカハリアリ *Pachycondyla pilosior* (Wheeler) M, I, O, V
- 9) ツシマハリアリ *Pachycondyla* sp. O
- 10) トゲズネハリアリ *Cryptopone sauteri* (Wheeler) M, I
- 11) ハナダカハリアリ *Cryptopone tengu* Terayama O
- 12) テラニシハリアリ *Ponera scabra* Wheeler M, I
- 13) ヒメハリアリ *Ponera japonica* Wheeler M, I
- 14) オガサワラハリアリ *Ponera swezeyi* Wheeler O
- 15) ニセハリアリ *Hypoponera sauteri* Onoyama M, I
- 16) クロニセハリアリ *Hypoponera nubatama* Terayama et Hashimoto M
- 17) トビニセハリアリ *Hypoponera bondroiti* (Forel) O

クビレハリアリ亜科 Cerapachyinae(1種)

- 1) ツチクビレハリアリ *Cerapachys humicola* Ogata M

ムカシアリ亜科 Leptanillinae(1種)

- 1) オガサワラムカシアリ *Leptanilla oceanica* Baroni Urbani O

フタフシアリ亜科 Myrmicinae(68種)

- 1) シワクシケアリ *Myrmica kotokui* Forel M
- 2) エゾクシケアリ *Myrmica jessensis* Forel M
- 3) ハヤシナガアリ *Stenammina owstoni* Wheeler M, I
- 4) ヒメナガアリ *Stenammina nipponense* Yasumatsu et Murakami M
- 5) アシナガアリ *Aphaenogaster famelica* (F. Smith) M, I
- 6) ヤマトアシナガアリ *Aphaenogaster japonica* Forel M, I
- 7) イソアシナガアリ *Aphaenogaster osimensis* Teranishi M, I, O
- 8) トゲナシアシナガアリ *Aphaenogaster edentula* Watanabe et Sk. Yamane O
- 9) クロナガアリ *Messor aciculatus* (F. Smith) M
- 10) アズマオオズアリ *Pheidole fervida* F. Smith M, I
- 11) オオズアリ *Pheidole noda* F. Smith M, I
- 12) インドオオズアリ *Pheidole indica* Mayr I, O

- 13) ミナミオオズアリ *Pheidole fervens* F. Smith O
- 14) ツヤオオズアリ *Pheidole megacephala* (Fabricius) O, V
- 15) ヒメオオズアリ *Pheidole pieli* Santschi I, O
- 16) クロオオズアリ *Pheidole susanowo* Onoyama et Terayama O
- 17) ムネボソアリ *Leptothorax congruus* F. Smith M, I
- 18) ハリナガムネボソアリ *Leptothorax spinosior* Forel M, I
- 19) チャイロムネボソアリ *Leptothorax kubira* Terayama et Onoyama M
- 20) カドムネボソアリ *Leptothorax koreanus* Teranishi M
- 21) ヒメムネボソアリ *Leptothorax arimensis* Azuma M
- 22) フシナガムネボソアリ *Leptothorax antera* Terayama et Onoyama I
- 23) オガサワラムネボソアリ *Leptothorax haira* Terayama et Onoyama O
- 24) シワムネボソアリ *Leptothorax santra* Terayama et Onoyama O
- 25) トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae* Emery M, I
- 26) オオシワアリ *Tetramorium bicarinatum* Nylander I, O, V
- 27) キイロオオシワアリ *Tetramorium nipponense* Wheeler I, O
- 28) イカリゲシワアリ *Tetramorium lanuginosum* Mayr O
- 29) サザナミシワアリ *Tetramorium simillimum* (F. Smith) O, V
- 30) ナンヨウシワアリ *Tetramorium tonganum* Mayr O
- 31) ハダカアリ *Cardioconyla nuda* (Mayr) I, O, V
- 32) ヒメハダカアリ *Cardiocondyla tsukuyomi* Terayama O
- 33) キイロハダカアリ *Cardiocondyla wroughtonii* (Forel) O, V
- 34) イオウハダカアリ(仮称) *Cardiocondyla* sp. V
- 35) トフシアリ *Solenopsis japonica* Wheeler M, I
- 36) アカカミアリ *Solenopsis geminata* (Fabricius) V
- 37) ヒメアリ *Monomorium intrudens* F. Smith M, I
- 38) キイロヒメアリ *Monomorium triviale* Wheeler M
- 39) クロヒメアリ *Monomorium chinense* Santschi I, O, V
- 40) フタイロヒメアリ *Monomorium floricola* (Jerdon) O
- 41) ミゾヒメアリ *Monomorium destructor* (Jerdon) V
- 42) イエヒメアリ *Monomorium pharaonis* (Linnaeus) M [人為的移入, 定着], O, V
- 43) カドヒメアリ *Monomorium sechellense* Emery O
- 44) ウメマツアリ *Vollenhovia emeryi* Wheeler M, I
- 45) サキシマウメマツアリ *Vollenhovia sakishimana* Terayama et Kinomura O
- 46) コツノアリ *Oligomyrmex yamatonis* Terayama M, I
- 47) ヨコツナアリ *Pheidologeton diversus* (Jerdon) O
- 48) カドフシアリ *Myrmecina nipponica* Wheeler M, I
- 49) キイロカドフシアリ *Myrmecina flava* Terayama M
- 50) アミメアリ *Pristomyrmex pungens* Mayr M, I, O
- 51) ハリフトシリアゲアリ *Crematogaster matsumurai* Forel M, I
- 52) テラニシシリアゲアリ *Crematogaster teranishii* Santschi M, I

- 53) スジシリアゲアリ *Crematogaster vagula* Wheeler I
- 54) ツヤシリアゲアリ *Crematogaster nawai* Ito I
- 55) キイロシリアゲアリ *Crematogaster osakensis* Forel M, I
- 56) ウロコアリ *Strumigenys lewisi* Cameron M, I
- 57) オオウロコアリ *Strumigenys solifontis* Brown I, O
- 58) ヨフシウロコアリ *Strumigenys emmae* (Emery) O
- 59) キタウロコアリ *Strumigenys* sp. M, I
- 60) キバブトウロコアリ *Strumigenys exilirhina* Bolton O
- 61) イガウロコアリ *Pyramica benten* (Terayama, Lin et Wu) M, I
- 62) ノコバウロコアリ *Pyramica incerta* (Brown) M, I
- 63) ホソノコバウロコアリ *Pyramica rostrataeformis* (Brown) M
- 64) トカラウロコアリ *Pyramica membranifera* (Emery) M, I, O, V
- 65) ヒラタウロコアリ *Pyramica canina* (Brown et Boisvert) M, I
- 66) セダカウロコアリ *Pyramica hexamera* (Brown) M, I, O
- 67) ヒメセダカウロコアリ *Pyramica hirashimai* (Ogata) I
- 68) コヌカアリ *Pyramica mutica* (Brown) I

カタアリ亜科 Dolichoderinae(6種)

- 1) ヒラフシアリ *Technomyrmex gibbosus* Wheeler M
- 2) アシジロヒラフシアリ *Technomyrmex albipes* (F. Smith) O, V
- 3) シベリアカタアリ *Dolichoderus sibiricus* Emery M
- 4) ルリアリ *Ochetellus glaber* (Mayr) M, I, O
- 5) アワテコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum* (Fabricius) O, V
- 6) コヌカアリ *Tapinoma* sp. I, O

ヤマアリ亜科 Formicinae(39種)

- 1) ミツバアリ *Acropyga sauteri* Forel I
- 2) イツツバアリ *Acropyga nipponensis* Terayama I
- 3) ウスヒメキアリ *Plagiolepis alluaudi* Emery O
- 4) アシナガキアリ *Anoplolepis gracilipes* F. Smith V
- 5) アメイロアリ *Paratrechina flavipes* (F. Smith) M, I
- 6) サクラアリ *Paratrechina sakurae* (Ito) M, I
- 7) ヒゲナガアメイロアリ *Paratrechina longicornis* (Latreille) O, V
- 8) ケブカアメイロアリ *Paratrechina amia* (Forel) O, V
- 9) オガサワラアメイロアリ *Paratrechina ogasawarensis* Terayama O, V
- 10) ツヤサクラアリ *Paratrechina* sp. I
- 11) トビイロケアリ *Lasius japonicus* Santschi M, I
- 12) カワラケアリ *Lasius sakagamii* Yamauchi et Hayashida M, I
- 13) ハヤシケアリ *Lasius hayashi* Yamauchi et Hayashida M, I
- 14) ヒゲナガケアリ *Lasius productus* Wilson M, I

- 15) キイロケアリ *Lasius flavus* (Fabricius) M, I
- 16) ヒメキイロケアリ *Lasius talpa* Wilson M, I
- 17) クサアリモドキ *Lasius spathopus* Wheeler M, I
- 18) クロクサアリ *Lasius fuliginosus* (Latreille) M, I
- 19) フシボソクサアリ *Lasius capitatus* (Kuznetsov-Ugamsky) M
- 20) アメイロケアリ *Lasius umbratus* (Nylander) M, I
- 21) クロヤマアリ *Formica japonica* Motschoulsky M, I
- 22) ハヤシクロヤマアリ *Formica hayashi* Terayama et Hashimoto M
- 23) ヤマクロヤマアリ *Formica lemani* Bondroit M
- 24) サムライアリ *Polyergus samurai* Yano M
- 25) クロオオアリ *Camponotus japonicus* Mayr M, I
- 26) ムネアカオオアリ *Camponotus obscuripes* Mayr M, I
- 27) アメイロオオアリ *Camponotus devestivus* Wheeler M, I
- 28) ヨツボシオオアリ *Camponotus quadrinotatus* Forel M
- 29) クサオオアリ *Camponotus keihittoi* Forel M, I
- 30) ケブカツヤオオアリ *Camponotus nipponensis* Santschi M
- 31) ミカドオオアリ *Camponotus kiusiuensis* Santschi M, I
- 32) ヤマヨツボシオオアリ *Camponotus yamaokai* Terayama et Satoh M
- 33) ナワヨツボシオオアリ *Camponotus nawai* Ito M, I
- 34) イトウオオアリ *Camponotus itoi* Forel M
- 35) ウメマツオオアリ *Camponotus vitiosus* F. Smith M, I
- 36) オガサワラオオアリ *Camponotus ogasawarensis* Terayama et Satoh O
- 37) ヒラズオオアリ *Camponotus nipponicus* Wheeler M, I, O
- 38) トゲアリ *Polyrhachis lamellidens* F. Smith M, I
- 39) チクシトゲアリ *Polyrhachis moesta* Emery I

計 6亜科38属132種

東京都本土への人為的移入種(定着)

- 1) イエヒメアリ *Monomorium pharaonis* (Linnaeus)

東京都本土から記録された人為的移入種

- 1) キイロオオシワアリ *Tetramorium nipponense* Wheeler (青梅市)
- 2) アワテコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum* (Fabricius) (新宿区, 港区)
- 3) ヒゲナガアメイロアリ *Paratrechina longicornis* (Latreille) (上野)
- 4) オガサワラオオアリ *Camponotus ogasawarensis* Terayama et Satoh (大田区)
- 5) ナガフシアリ *Tetraoponera allaborans* (Walker) (府中市)